

公益社団法人 中央畜産会 御中

# 令和6年度 馬獣医療実態調査

## 【報告書】

令和7年2月21日

調査概要	P2
------	----

Summary	P4
---------	----

## <調査結果詳細>

1.飼育馬の飼育概要	P9
------------	----

2.15歳以上の高齢馬の健康管理と疾病予防に関する調査	P17
-----------------------------	-----

3.飼育している馬の健康管理と疾病予防対策	P24
-----------------------	-----

4.意見・要望	P33
---------	-----

5. 2016年度～2024年度 種類・用途・導入元・年齢把握	P35
---------------------------------	-----

6. Appendix	P39
-------------	-----

---

# I .調査概要

# 調査概要

調査目的	馬飼育に関する基本的事項や、馬飼養衛生管理や予防対策に係る事項等の調査を行い、地域における馬飼養実態を把握し、地域の馬飼養衛生管理を充実させる。 令和6年度の調査においては、従来の基本的事項に加え、15歳以上の高齢馬における飼養衛生管理や疾病予防対策を把握するための調査を行い、高齢馬に対する飼養衛生管理の向上、及び動物愛護や福祉の向上に役立てるために馬獣医療実態調査を実施する。
調査手法	郵送調査 (各都道府県、畜産団体等を通じて、対象者に協力依頼文書及びアンケートに協力を願い調査を行う)
対象者条件	全国の馬飼育管理者
回収数	馬飼育管理者：928サンプル
調査期間	2024年11月～12月
備考	※報告書スコア n=30未満は参考値として、グレーハッチング

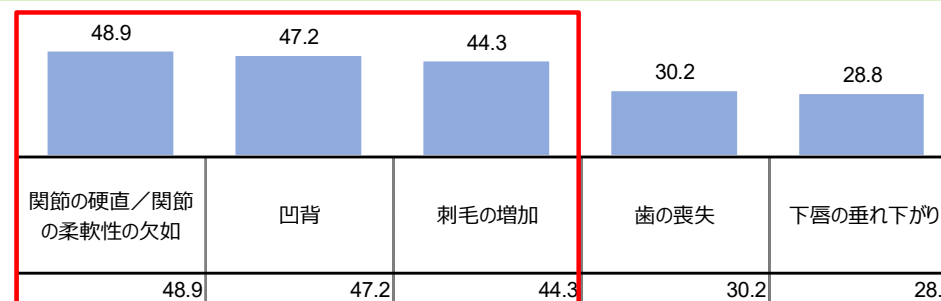
---

## II .Summary

# Summary① 飼育馬の老化現象・臨床症状の実態

## ■ 老化現象の徴候とは？ (Q9)

- ✓ 「**関節の硬直/関節の柔軟性の欠如**」が最多で49%、次いで「**凹背**」「**刺毛の増加**」が44～47%で続く。
- ✓ 施設の種類でみると、『乗馬クラブ』は老化現象として認められている徴候が多い。



n=15歳以上の高齢馬飼育者 (単位: %)  
※全体スコアにて降順ソート  
(n=650)

## ■ 高齢馬で認められる臨床症状とは？ (Q10)

- ✓ 「**筋肉量の減少**」が60%で最も高く、次いで「**運動能力の低下**」が48%、「**体重の減少**」34%。
- ✓ 「**眼窩上の脂肪**」「**食欲増進**」「**うつ状態又は無気力**」は2%前後で低い。

## ■ 実際にあった臨床症状とは？ (Q11-1)

- ✓ 「**疝痛**」が49%で最多、「**跛行**」が46%で続く。「**過去1年に何らかの臨床症状があった**」が83%で15歳以上の高齢馬の場合、何かしらの臨床症状があるという回答が多い。

## ■ 獣医師の診療の有無は？ (Q11-2)

- ✓ 「**疝痛**」が37%で最も高く、次いで「**跛行**」が33%。
- ✓ 馬の種類でみると、『軽種馬』『乗系馬 (中間種)』は他の馬と比べて獣医師の診療を受けている例が多く特に『軽種馬』の「**跛行**」は全体よりも10pt以上高い。

## ■ 現在治療中の疾病は？ (Q12-1)

- ✓ 「**蹄葉炎**」「**その他の皮膚疾患**」が12%で現在治療中の疾病の中で最も高い。次いで「**吸血昆虫アレルギー (夏癬)**」「**その他の筋骨格障害**」が6%で続く。「**その他の呼吸器疾患 (SAOPDを含む)**」「**回帰性気道閉塞 (RAO (旧名称息労))**」は1%前後で低い。

飼育馬の老化現象の徴候としては、「**関節の硬直/関節の柔軟性の欠如**」「**凹背**」「**刺毛の増加**」が高く、若い馬と比較して高齢馬で認められる症状としては「**筋肉量の減少**」「**運動能力の低下**」「**体重の減少**」等がある。  
臨床症状があった例として高かった「**疝痛**」「**跛行**」については、獣医師の診療も受けている例が多い。

# Summary② 飼育馬の駆虫対策・感染病予防対策の状況

## ■ 駆虫対策の実態は？ (Q13)

- ✓ 「一定間隔での駆虫を実施している」が62%で最も高い。特に『乗馬クラブの馬』は同項目が81%で非常に高い。
- ✓ 一定間隔で駆虫を実施している方の年間の駆虫回数は「年1回」が42%、「年2回」が58%で「年2回」実施する方が多い。
- ✓ 駆虫対策を一定間隔で実施している飼育者が多い中で、『農場の馬』は「駆虫対策を実施していない」という回答もあった。

## ■ 装削蹄の頻度は？ (Q14)

- ✓ 「4～8週間で実施」が45%、「必要な場合のみ実施」が25%で続く。  
『競技用』や『乗馬クラブの馬』は「4～8週間で実施」が75%超えて、定期的に行われている。

## ■ 感染病予防の対策方法は？ (Q15)

- ✓ 日常観察：「餌を与えた際の食欲」「馬房にいる時の様子」が90%程度で非常に高い。
- ✓ 異状時：「すぐに診療獣医師に依頼する」が83%

## ■ ワクチンによる感染予防対策は？ (Q17~Q19)

- ✓ ワクチン接種率は75%。「助成を受けたことがある」は29%、「助成を知らなかった」が4.4%  
ワクチン接種を行わない理由としては、「馬が高齢のため」「人や馬との接触がない」という回答があった。
- ✓ 馬インフルエンザワクチンの接種は、「全頭毎年2回接種している」が56%で接種率は76%。  
『競技用の馬』や『乗用の馬』は接種率が90%超えて高い。
- ✓ 馬鼻肺炎ワクチンの接種は、接種率が8%で低い。

## ■ 意見・要望※一部抜粋 (Q20)

- ✓ 意見・要望は「講習会・情報提供の充実」「高齢馬の飼育管理」「疾病対策と予防」「栄養管理と餌の情報」「ワクチン接種と補助」等の意見があった。

駆虫対策は一定間隔で実施している飼育者が多い。ワクチン接種率については75%で、「ワクチンの助成を受けたことがある」は29%、「助成を知らなかった」は4.4%。また、ワクチン接種を行わない理由としては「馬が高齢のため」「人や馬との接触がない」という回答があった。飼育者の意見・要望として、「高齢馬に関する講習会の開催」「高齢馬の管理方法」等が求められており、今後、飼育者向けの教育を更に強化していくことも重要と考える。

# Summary③ 飼育概要について

## ■ 飼育馬施設の住所地・回答者の職種 (F0・Q1)

- ✓ 回答があった地域は「関東」が26%、「北海道・東北」が23%。「関東」と「北海道・東北」で半数を占める。
- ✓ 回答者の役職は、「農場主」が46%で約半数。「その他」は32%で「乗馬インストラクター」「動物園職員」「大学生」等の回答があった。

## ■ 施設の種類・従業員数 (Q2・Q3)

- ✓ 施設の種類の「乗馬クラブ」が33%、「個人」が29%。その他には、「動物園」は28件、「観光牧場」は22件が含まれる。(250件中)
- ✓ 従業員数は正社員、アルバイト、家族経営、その他のそれぞれで「5人未満」が半数以上で最も高い。

## ■ 飼育馬の種類・日本在来馬の品種・飼育馬の用途 (Q4、Q5)

- ✓ 飼育馬の種類は、「軽種馬」が最も高く52%、次いで「乗系馬（中間種）」が22%で続く。
- ✓ 日本在来馬の品種は「北海道和種」が73%が多い。
- ✓ 飼育馬の用途は「乗用」が53%で最も高く、次いで「競技用」が12%。

## ■ 飼育馬の導入元 (Q6)

- ✓ 飼育馬の導入元は「乗馬クラブ」が最も高く44%、次いで「公営（地方）競馬」が26%、「中央競馬」が24%で続く。

## ■ 飼育馬の年齢把握方法 (Q7)

- ✓ 飼育馬の年齢把握方法は、「記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」が85%で大多数。

## ■ 飼育馬の年齢分布 (Q8・9)

- ✓ 飼育馬の年齢分布は、いずれの年齢も「5頭未満」が多数。『11～30歳』は同項目が70%程度で大半である。
- ✓ 15歳以上の高齢馬飼育者は70%、15歳未満の馬飼育者は30%であった。

---

## Ⅲ. 調査結果詳細

---

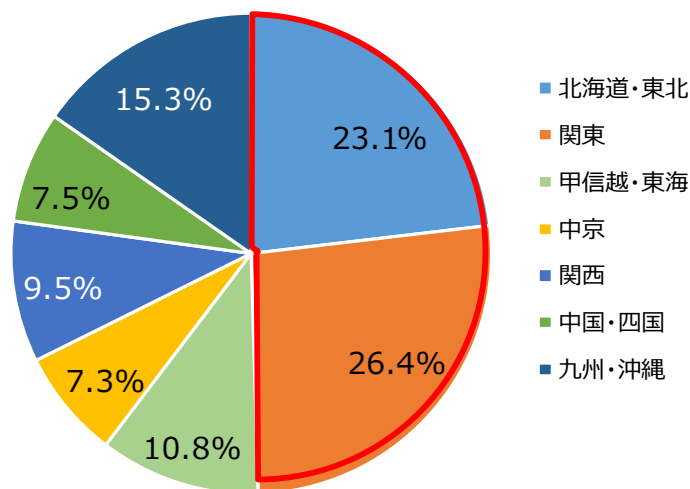
# 1. 飼育馬の飼育概要

# 飼育馬施設の住所地／回答者の職種

- 回答があった地域は「関東」が26%、「北海道・東北」が23%。「関東」と「北海道・東北」で半数を占める。
- 回答者の役職は、「農場主」が46%で約半数。「その他」は以下のとおり。

n=全体 (単位: %)  
(n=928)

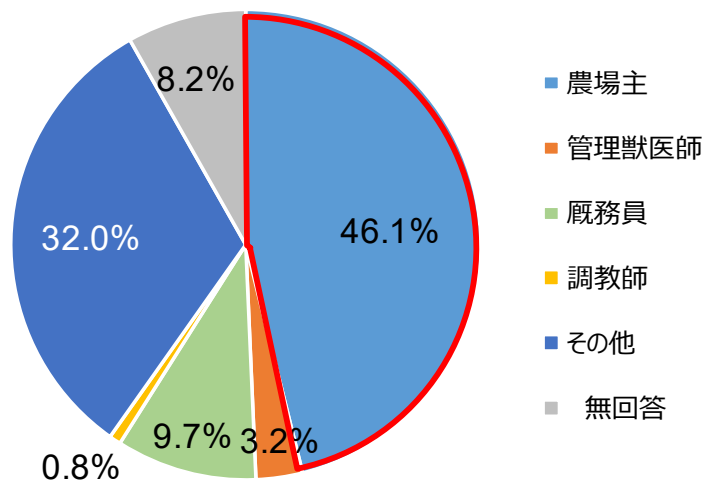
F0. あなたの飼育馬施設の住所地をご記入してください。



Q1. ご回答者の「職種」をお選びください。

n=全体 (単位: %)  
(n=928)

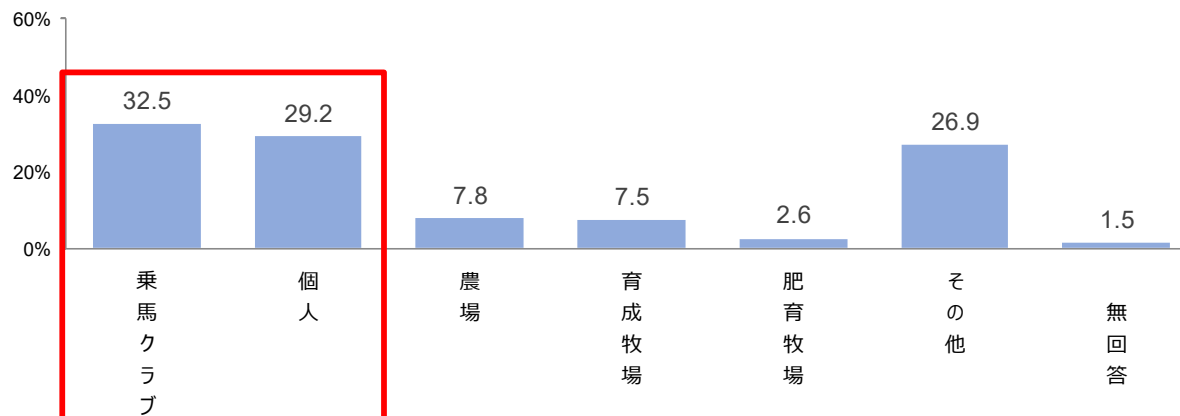
- 【その他 (抜粋)】
- ・乗馬クラブ代表
  - ・飼育員
  - ・事務員
  - ・大学生
  - ・乗馬インストラクター
  - ・動物園職員
  - ・医療法人社団 副部長補佐
  - ・部活動顧問
  - ・福祉職員 など



# 施設の種類／従業員数

- 施設の種類の「乗馬クラブ」が33%、「個人」が29%。その他には、「動物園」は28件、「観光牧場」は22件が含まれる。(250件中)
- 従業員数はいずれも、「5人未満」が半数以上で最も高い。

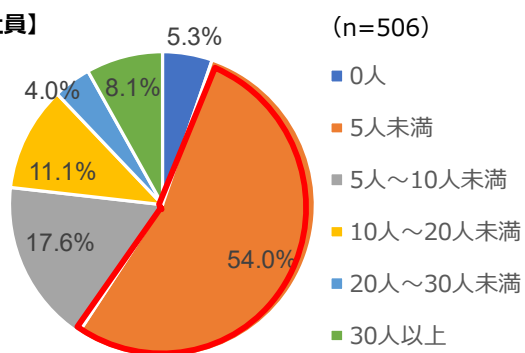
Q2. 施設の種類についてお伺いします。(複数回答可)



n=全体 (単位: %)  
※全体スコアにて降順ソート  
(n=928)

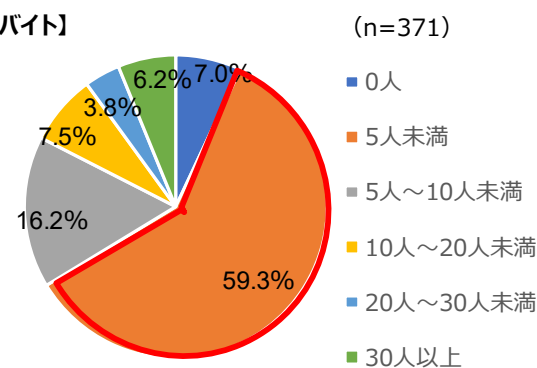
Q3. 施設の従業員数(規模)はどの位ですか。

【正社員】



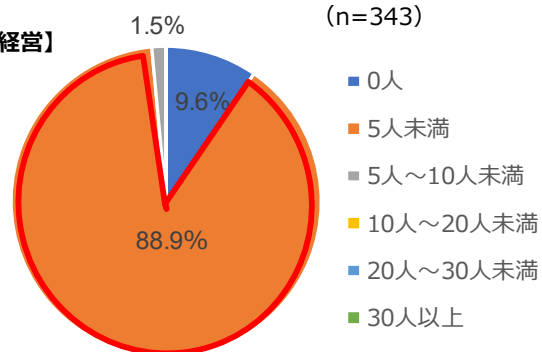
(n=506)

【アルバイト】



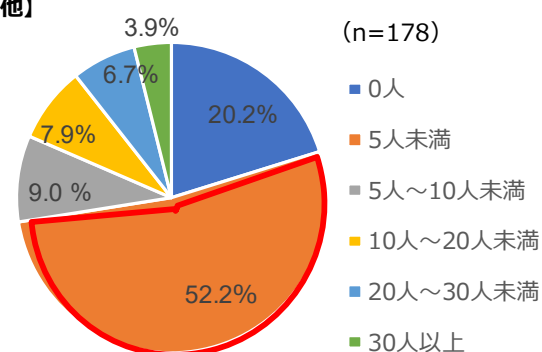
(n=371)

【家族経営】



(n=343)

【その他】



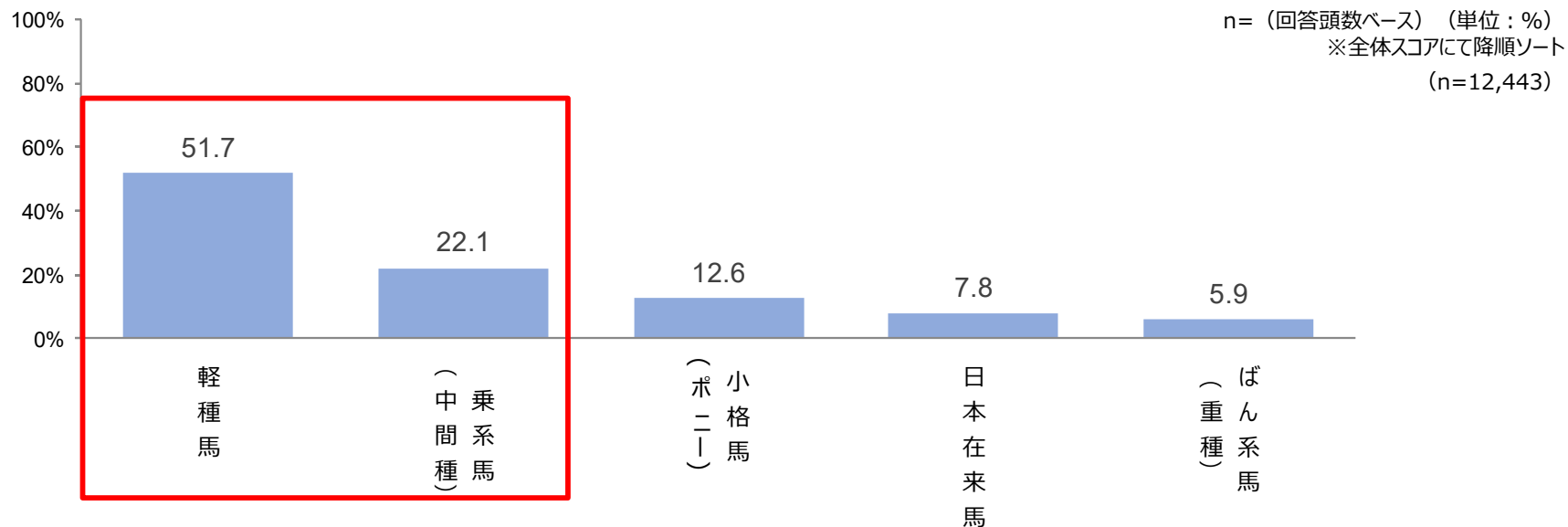
(n=178)

n=回答者ベース (単位: %)

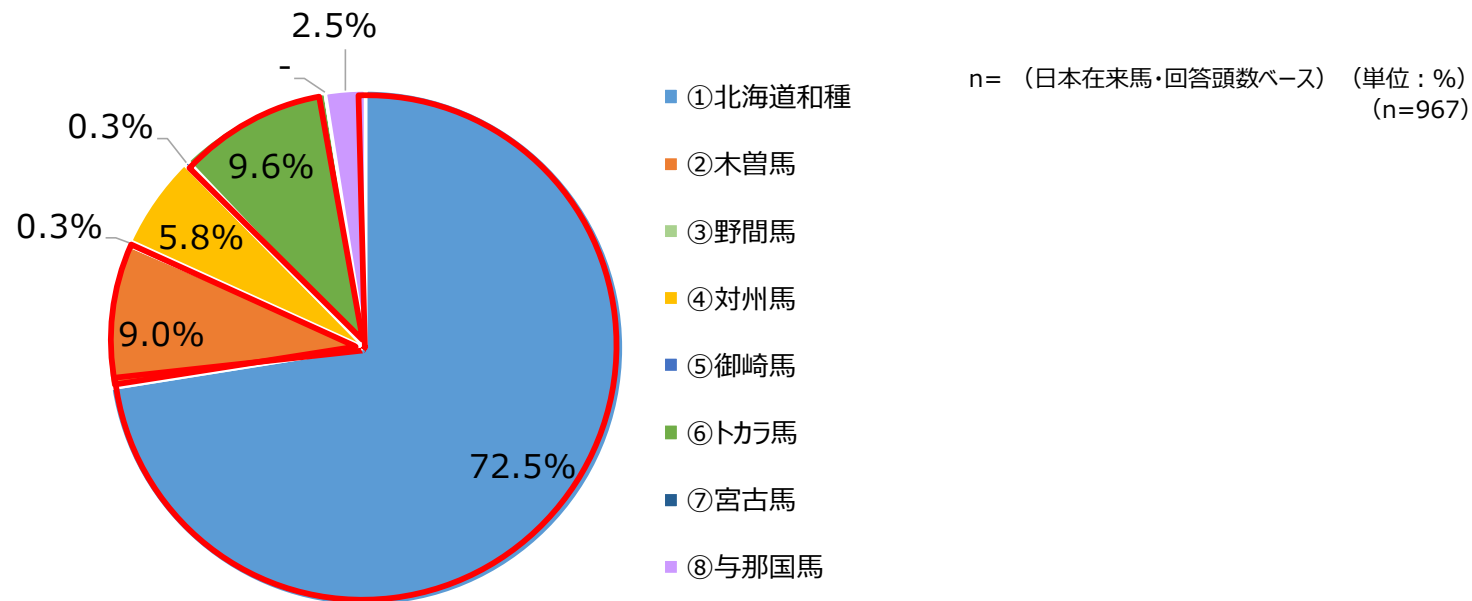
# 飼育馬の種類・日本在来馬の品種

- 飼育馬の種類は、「軽種馬」が最も高く52%、次いで「乗系馬（中間種）」が22%で続く。
- 日本在来馬の品種は「北海道和種」が73%で多い。次いで「トカラ馬」「木曾馬」が9～10%となっていた。

Q4,5-1. 飼育馬の種類



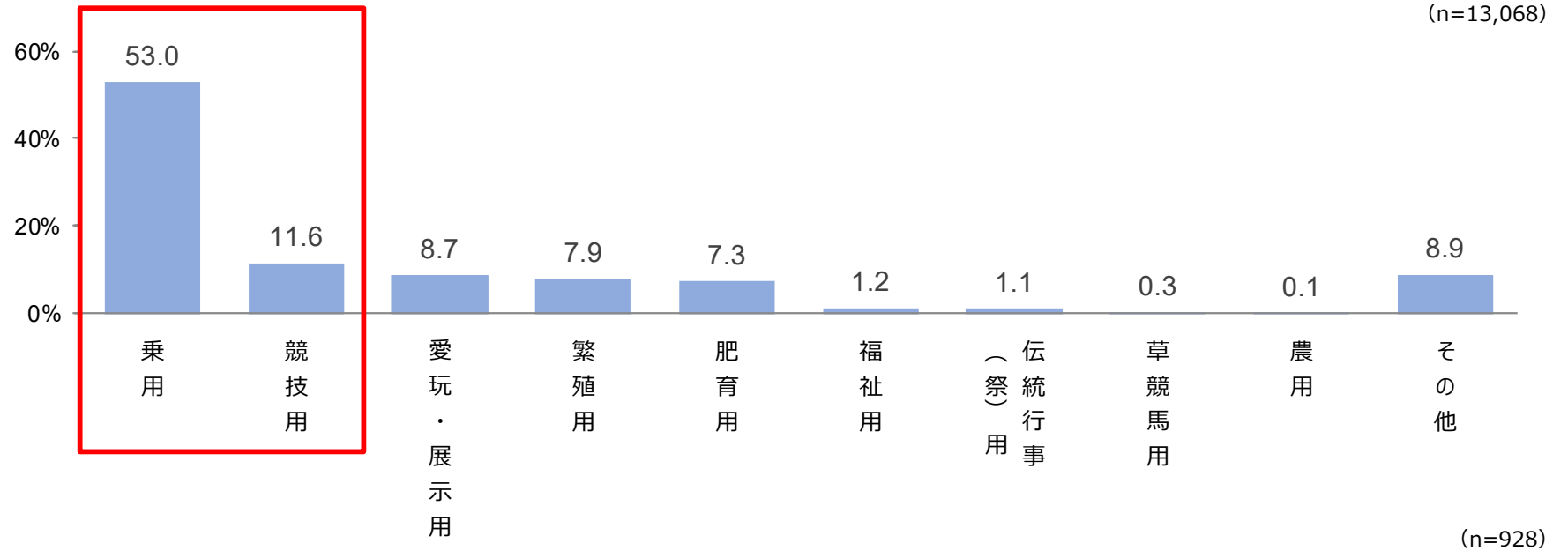
Q4. 日本在来馬の品種



# 飼育馬の用途

➤ 飼育馬の用途は「乗用」が53%。次いで「競技用」が12%、その他の項目については10%未満という結果。

Q5-2. 飼育馬の用途



# 飼育馬の導入元

- 飼育馬の導入元は「乗馬クラブ」が最も高く44%、次いで「公営（地方）競馬」が26%、「中央競馬」が24%で続く。
- 種類で見ると、『軽種馬』『乗系馬（中間種）』『小格馬（ポニー）』『日本在来馬』では「乗馬クラブ」が最多導入元となっているが、『ばん系馬（重種）』は「自家生産」「家畜市場」が導入元として多い。
- 用途で見ると、『競技用』は「乗馬クラブ」から、『繁殖用』は「自家生産」からの導入が多い。

Q6. 飼育馬の導入元について、当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

n=全体（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート

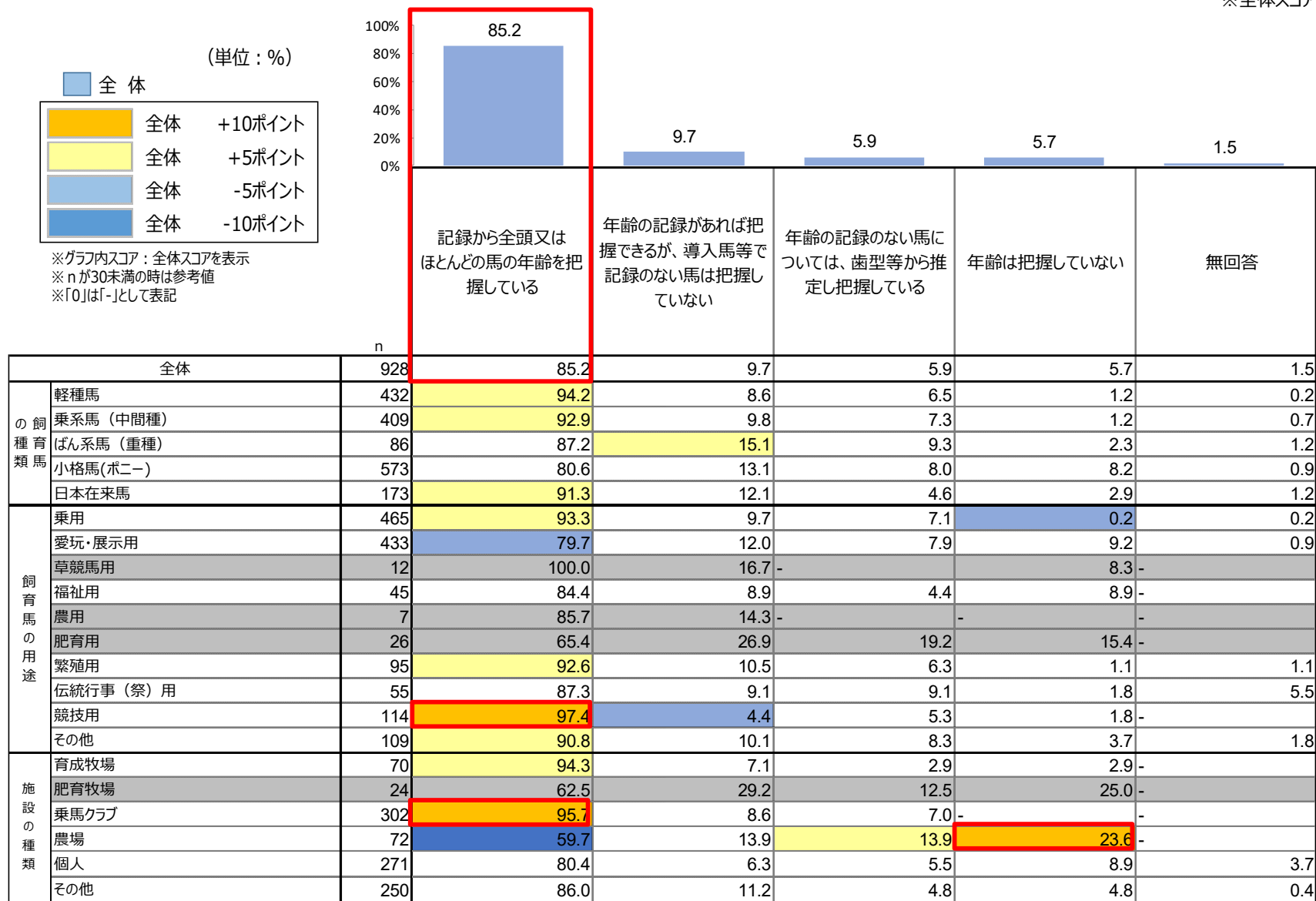


# 飼育馬の年齢把握方法

- 飼育馬の年齢把握方法は、「記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」が85%で大多数。
- 『競技用』や『乗馬クラブ』は「記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」が96～97%。
- 一方で、『農場』は「年齢は把握していない」が他の馬の種類や用途、施設の種類の種類と比較して高い。

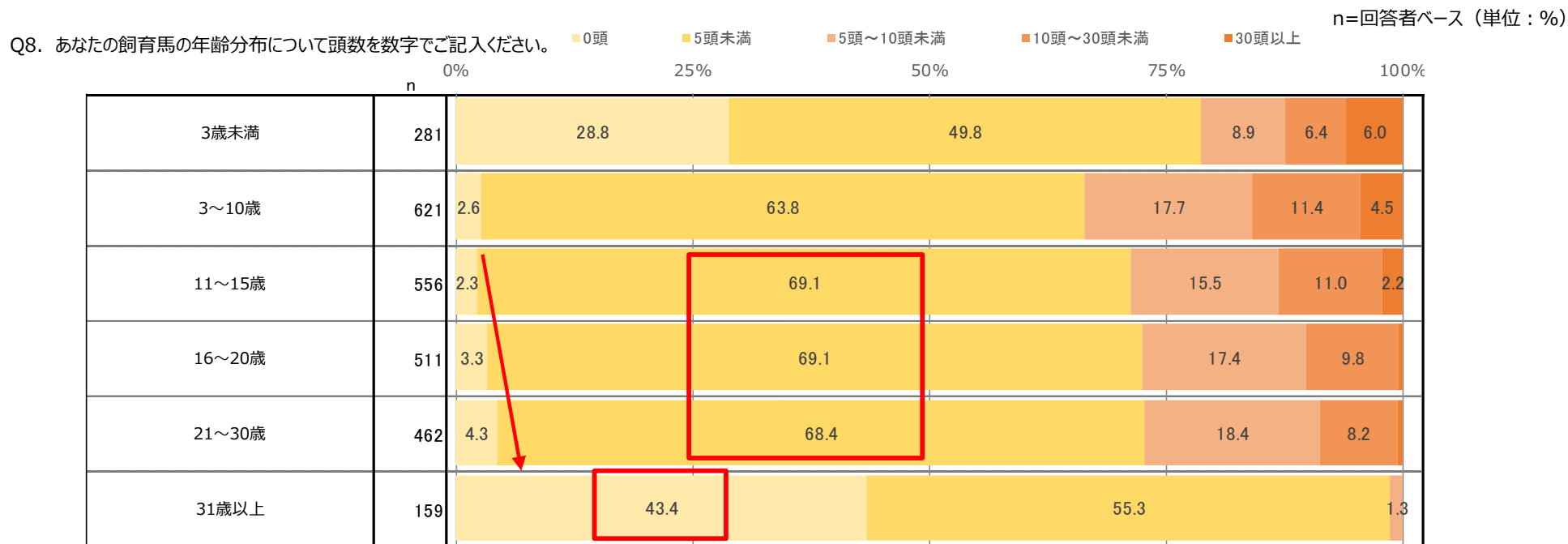
Q7. あなたの飼育馬の年齢の把握方法について、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答可）

n=全体（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート



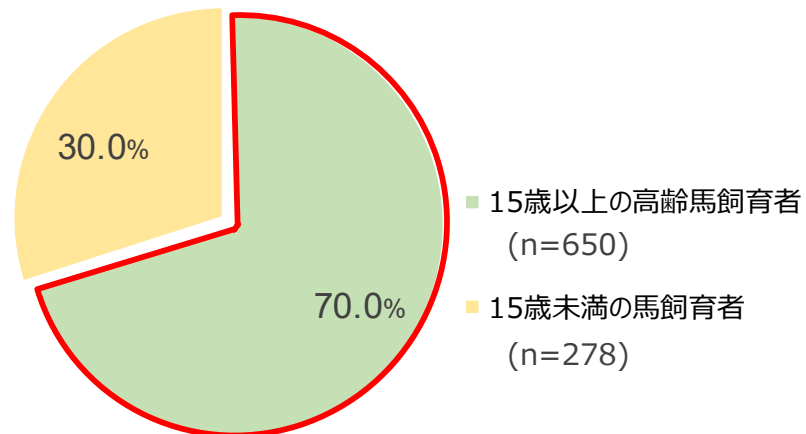
# 飼育馬の年齢分布

- 飼育馬の年齢分布は、いずれの年齢も「5頭未満」が多数。『11～30歳』は同項目が70%程度で大半を占める。
- 『11歳以上』は年齢が高くなるにつれ、「0頭」が多くなる傾向。『31歳以上』は「0頭」が43%を占める。
- 15歳以上の高齢馬飼育者は70%、15歳未満の馬飼育者(高齢馬を飼育していない方)は30%であった。(Q9、Q13の分岐割合)



※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示

Q9の分岐. 飼育馬の15歳以上未満の割合



n= (回答頭数ベース) (単位: %)  
(n=928)

---

## 2.15歳以上の高齢馬の健康管理と疾病予防に関する調査

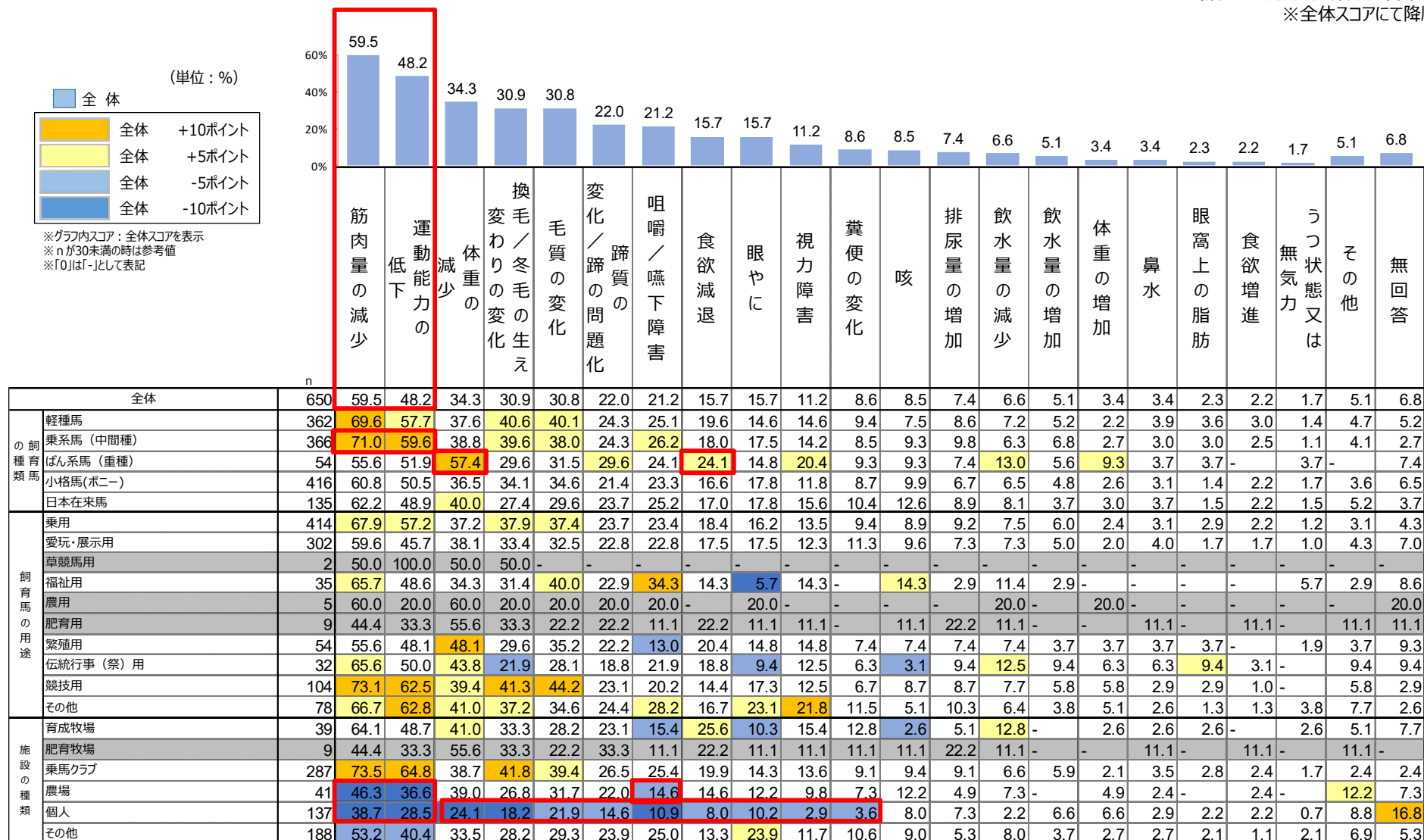


# 高齢馬で認められる臨床症状

- 高齢馬で認められる臨床症状は、「筋肉量の減少」が60%で最も高く、次いで「運動能力の低下」が48%で続く。
- 種類でみると、『乗系馬（中間種）』は「筋肉量の減少」「運動能力の低下」が全体よりも10pt以上高い。また、『ばん系馬（重種）』は「体重の減少」「食欲減退」が全体よりも高い結果。
- 施設の種類の種類でみると、『農場』や『個人』は他の属性と比較して低い項目が多い。

Q10. 〈15歳以上の高齢馬飼育者ベース〉現在、若い馬と比較して高齢馬で認められる臨床症状についてお伺いします。（複数回答可）

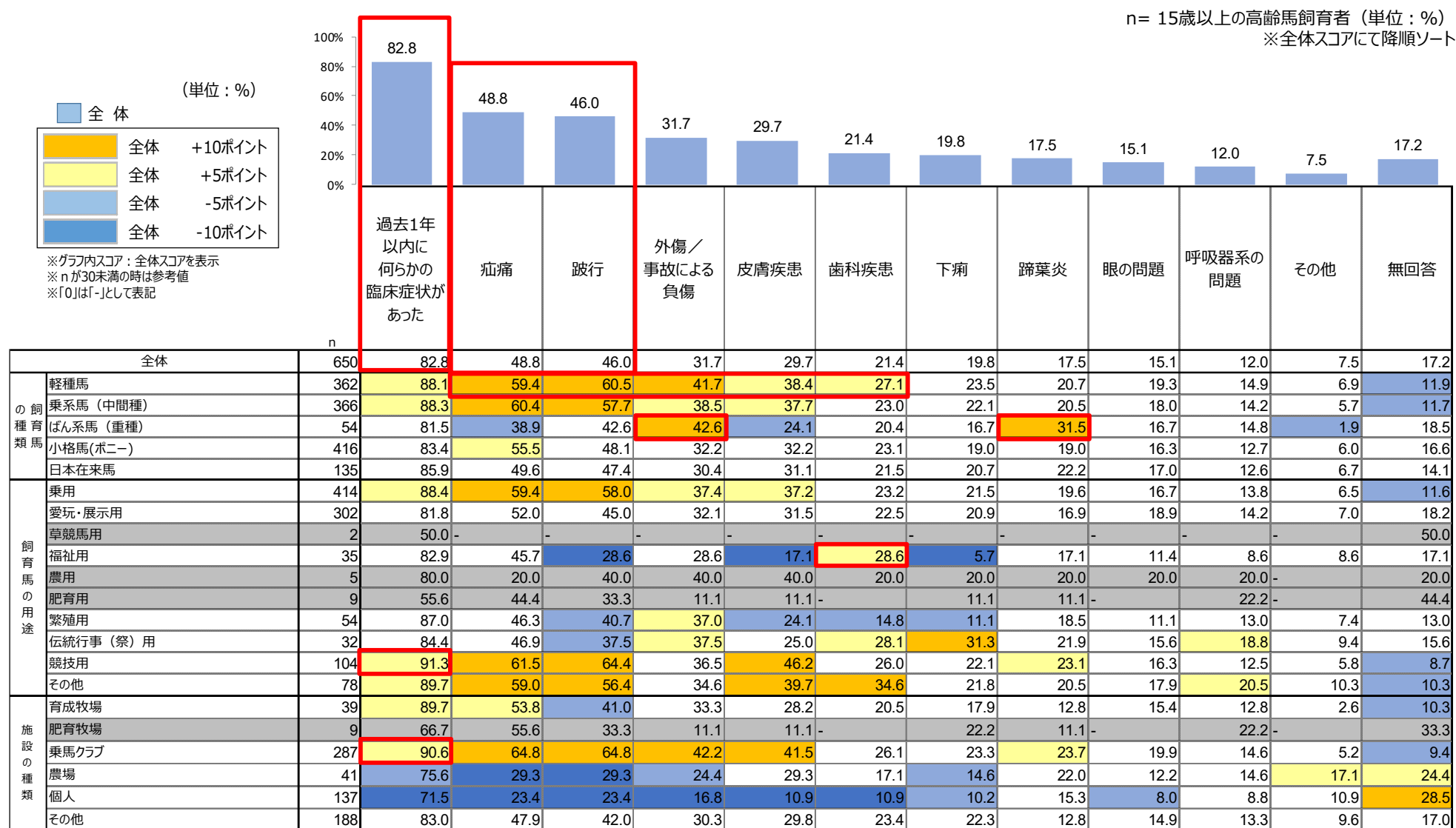
n= 15歳以上の高齢馬飼育者（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート



# 臨床症状があった例

- 臨床症状があった例は、「疝痛」が最も高く49%で、次いで「跛行」が46%と続く。「過去1年以内に何らかの臨床症状があった」は83%で、『競技用』や『乗馬クラブ』の馬は同項目が90%を超える。
- 種類でみると、『軽種馬』は他の馬よりも臨床症状が多く認められており、「跛行」が61%で最も高く、次いで「疝痛」が60%で続く。また、『ばん系馬（重種）』は「外傷/事故による負傷」「蹄葉炎」が全体よりも10pt以上高い。
- 『福祉用』の馬は、回答された臨床症状が少なかったが、「歯科疾患」については全体よりも高い。

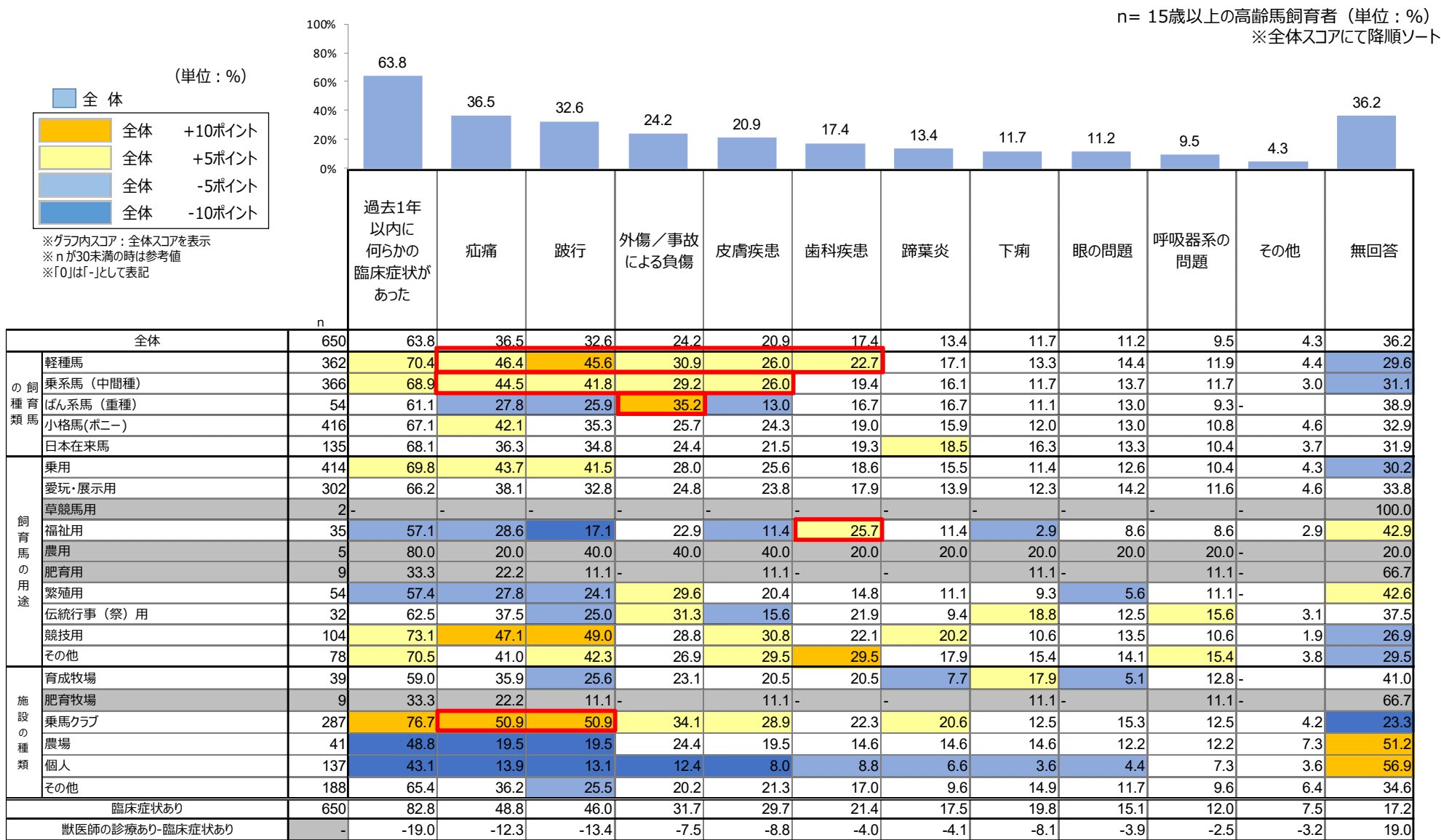
Q11-1. <15歳以上の高齢馬飼育者ベース>過去1年間で何らかの臨床症状があった例と獣医師の診療の有無についてお伺いします。（複数回答可）【該当する】



# 獣医師の診療の有無

- 獣医師の診療の有無を飼育馬の種類でみると、『軽種馬』『乗系馬（中間種）』は他の馬と比べて獣医師の診療を受けている例が多い。また、『ばん系馬（重種）』は「外傷/事故による負傷」という症状が最多で全体よりも10pt以上高い。
- 用途別でみると、『福祉用』は獣医師の診療を受けている例が少ないが、「歯科疾患」については全体よりも5pt以上高い。
- 種類別でみると、『乗馬クラブ』は「疝痛」「跛行」が51%で他の施設よりも高い。

Q11-2. 〈15歳以上の高齢馬飼育者ベース〉過去1年間で何らかの臨床症状があった例と獣医師の診療の有無についてお伺いします。（複数回答可）【獣医師診療の有無】

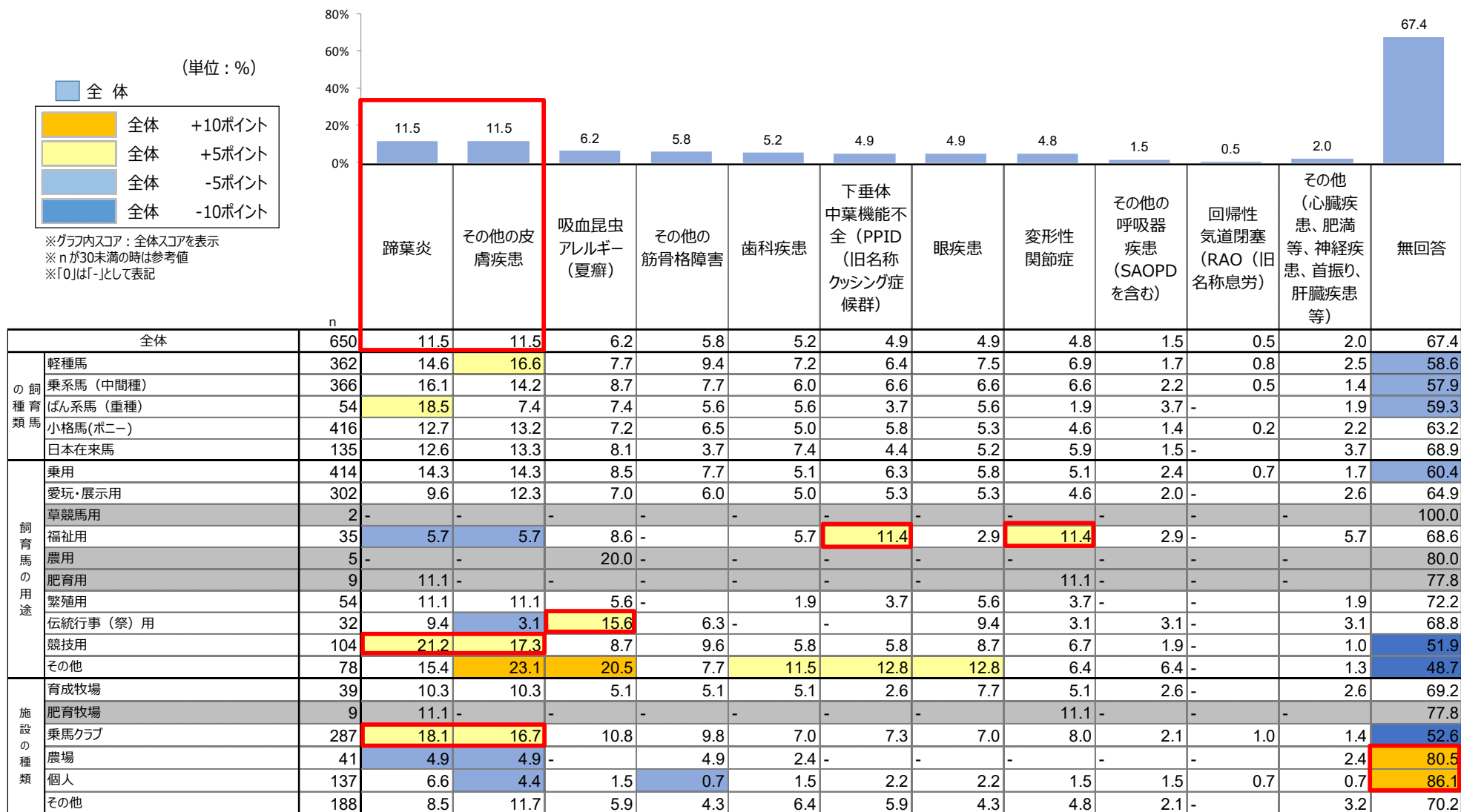


# 現在治療中の疾病

- 現在治療中の疾病は、「蹄葉炎」「その他の皮膚疾患」が12%で上位。
- 用途で見ると、『福祉用』の中では「下垂体中葉機能不全（PPID（旧名称クッシング症候群）」「変形性関節症」が最多で全体よりも高い。また、『伝統行事（祭）用』は「吸血昆虫アレルギー（夏癩）」が全体よりも約10pt高い。
- 『競技用』や『乗馬クラブ』は「蹄葉炎」「その他の皮膚疾患」が全体よりも高い。
- 施設の種類の見ると、『農場』『個人』は「無回答」が80%超えで高い。

n = 15歳以上の高齢馬飼育者（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート

Q12-1. 〈15歳以上の高齢馬飼育者ベース〉現在治療中の疾病についてお伺いします。（複数回答可）



# 治療以外の補完治療をする目的 ※一部抜粋

Q12-1. 〈15歳以上の高齢馬飼育者ベース〉治療の他に、補完治療を行っている方にお伺いします。どのような補完治療を行っていますか。

n= 15歳以上の高齢馬飼育者

## ハーブ療法

- ・アレルギー、食欲増進
- ・ストレス軽減、疲労回復
- ・体調維持のため
- ・免疫力向上
- ・吸血昆虫対策

## 理学療法

- ・マッサージ、血液を良くする。
- ・整体 体を整えるため
- ・筋肉や靭帯の運動能力の低下を改善・維持するため
- ・血行改善、筋肉の緊張を取り除く

## 磁気療法

- ・患部の血行の改善、コリの改善
- ・疲労回復、疾病回復、治療
- ・痛みの緩和
- ・筋肉増強
- ・背中 of 筋肉痛改善

## カイロプラクティック療法

- ・健康な馬体の骨格維持の為
- ・筋肉の凝りを和らげ、骨格の歪みを直す
- ・関節を整える
- ・馬体の歪み矯正しこり痛み

## 鍼灸療法

- ・こり、痛み等の緩和
- ・歩行改善
- ・疝痛時や後肢関節の動きの悪い際
- ・疲労回復、疾病回復、治療
- ・筋の緊張のかんわ

## セラピー・テーピング療法

- ・キネシオテーピング
- ・歩行改善
- ・疲労回復
- ・競技後のケア、馬体のメンテナンス
- ・筋膜のサポートとケア

---

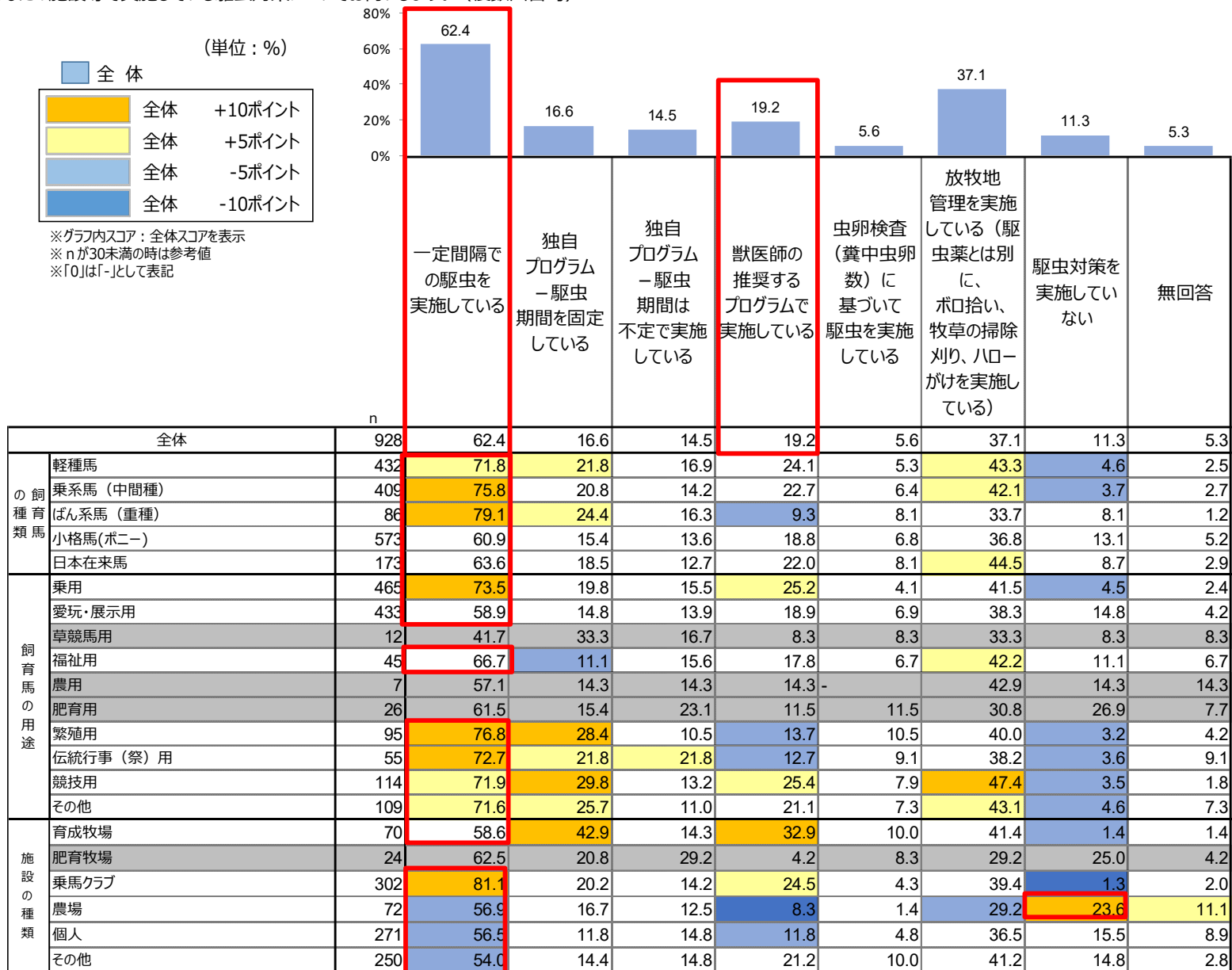
### 3.飼育している馬の健康管理と疾病予防対策

# 駆虫対策

- 駆虫対策は、「一定間隔での駆虫を実施している」が最も高く、62%、次いで「獣医師の推奨するプログラムで実施している」が19%で続く。いずれの場合でも「一定間隔での駆虫を実施している」が最多で定期的に駆虫対策を行っている方が多いことがうかがえる。一方で『農場』では「駆虫対策を実施していない」という回答が24%であった。
- 施設の種類の観点から、『乗馬クラブ』は「一定間隔での駆虫を実施している」が81%で非常に高かった。

Q13-1. あなたの施設等で実施している駆虫対策についてお伺いします。(複数回答可)

n=全体 (単位: %)



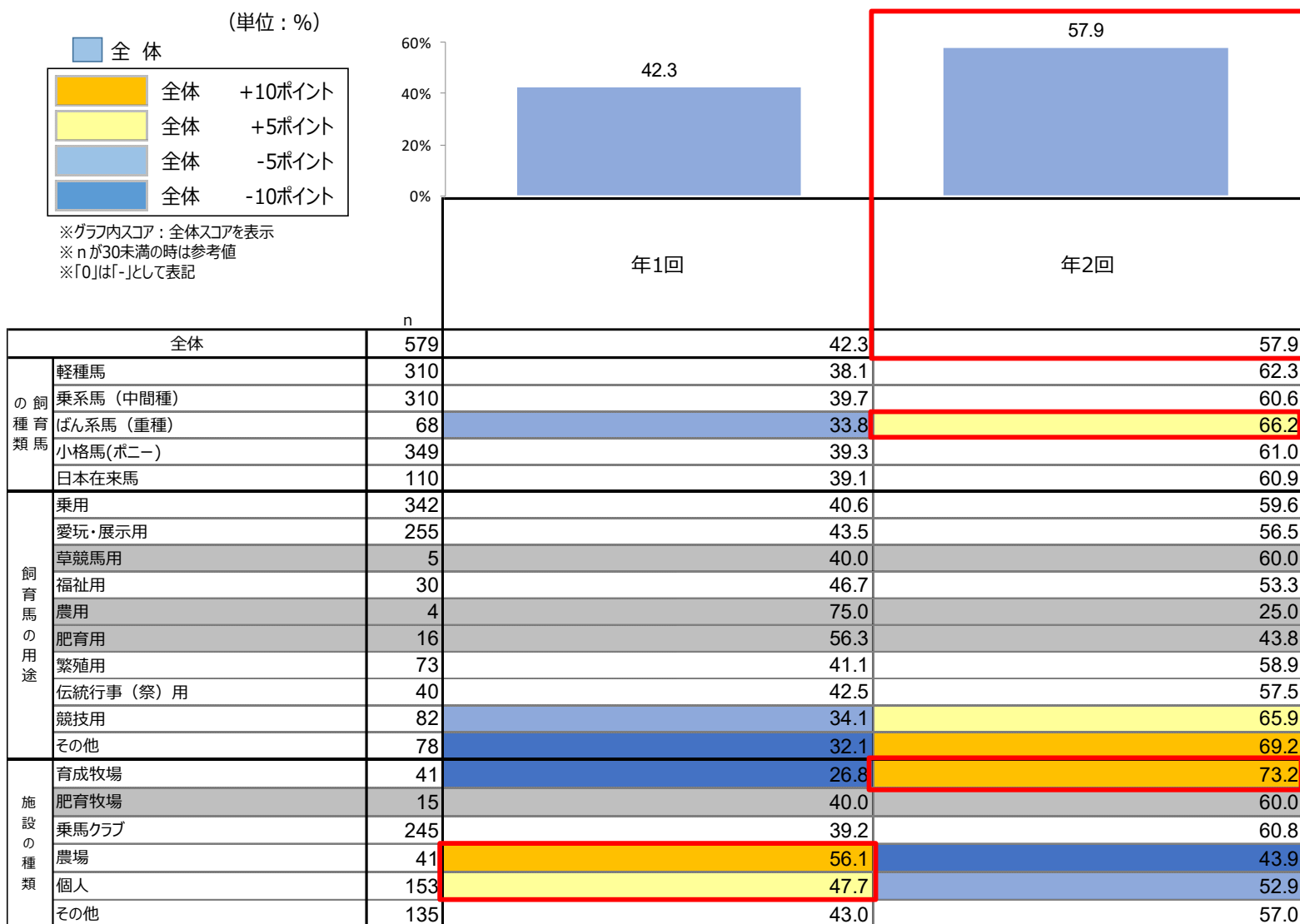
# 一定間隔で実施する駆虫対策

- 一定間隔で実施する駆虫対策は、「年1回」が42%、「年2回」が58%で「年2回」実施する方の方が多い。
- 飼育馬の種類でみると、『ばん系馬（重種）』は他の馬よりも「年2回」が多い。
- 施設の種類の種類でみると、『育成牧場』については「年2回」が73%で高い。一方で『農場』や『個人』は「年1回」が全体よりも高く、他の施設よりも駆虫対策の頻度は少ない。

n=一定間隔での駆虫を実施している人（単位：%）

Q13-2. あなたの施設等で実施している駆虫対策についてお伺いします。（複数回答可）【一定間隔での駆虫を実施している】

※年1回実施する年もあれば年2回実施する年もあるという観点から複数回答でアンケートを聴取

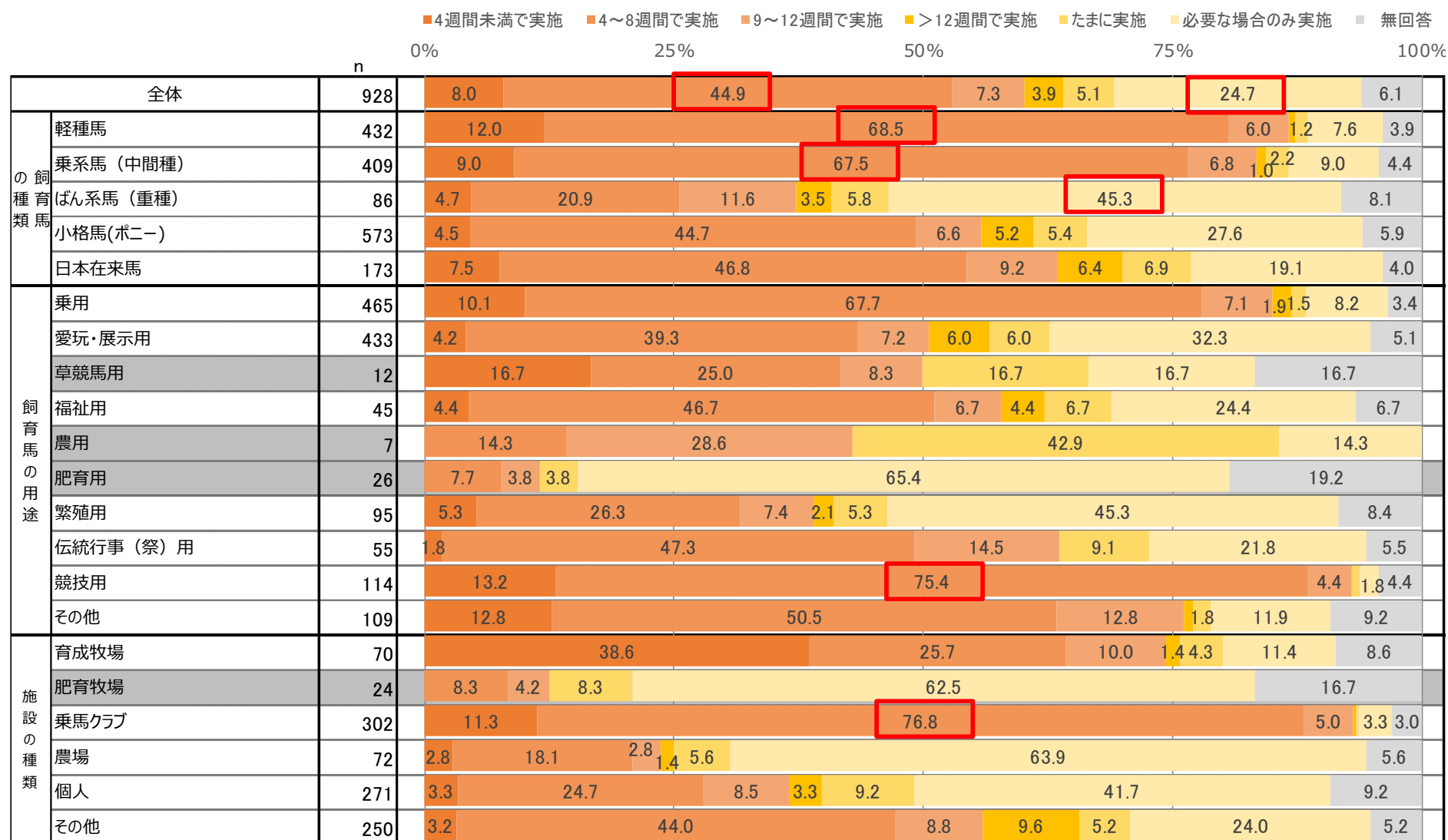


# 装削蹄の頻度

- 装削蹄の頻度は「4～8週間で実施」が最も高く45%、次いで「必要な場合のみ実施」が25%で続く。いずれの場合においても両項目のどちらかが最も高い。
- 飼育馬の種類でみると、『軽種馬』『乗系馬（中間種）』の「4～8週間で実施」が約70%で、全体よりも20pt以上高い。『ばん系馬（重種）』は「必要な場合のみ実施」が最多で他のどの馬よりも高い。
- 用途、施設の種類の種類でみると、『競技用』『乗馬クラブ』は「4～8週間で実施」が75%超え。

Q14. あなたの飼育馬の装削蹄の頻度についてお伺いします。

n=全体（単位：％）

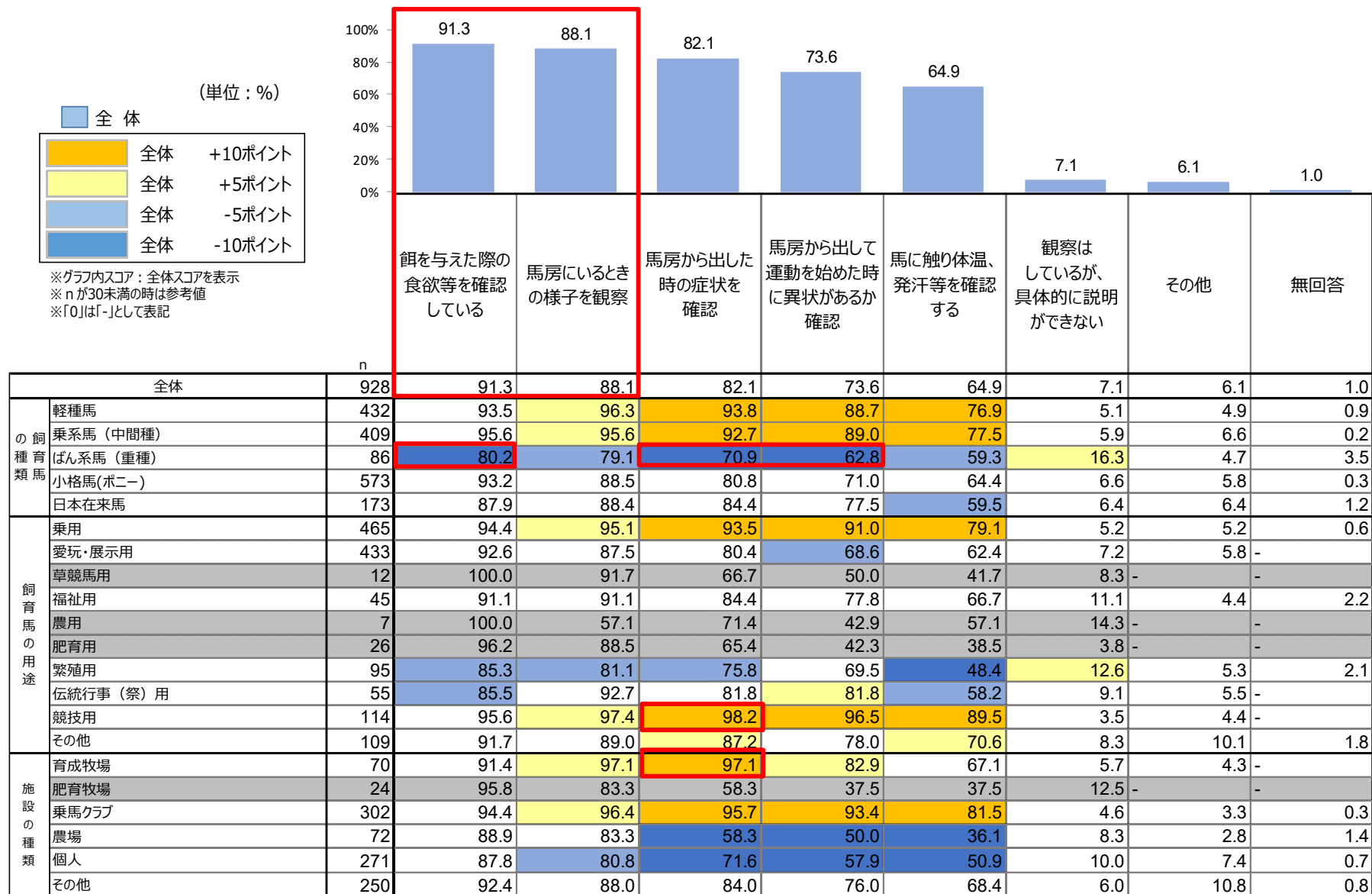


# 日常観察の実施方法

- 日常観察の実施方法は、「餌を与えた際の食欲等を確認している」が91%、「馬房にいるときの様子を観察」が88%で高い。また、飼育馬の種類でみると、『ばん系馬（重種）』はいずれの項目においてもスコアが全体よりも低く、特に「餌を与えた際の食欲等を確認している」「馬房から出した時の症状を確認」「馬房から出して運動を始めた時に異状があるか確認」は全体よりも10pt以上低い。
- 用途、施設の種類でみると、『競技用』『育成牧場』は「馬房から出した時の症状を確認」が97～98%で非常に高い。

n=全体（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート

Q15. あなたの飼育馬の日常観察はどのように実施していますか。（複数回答可）

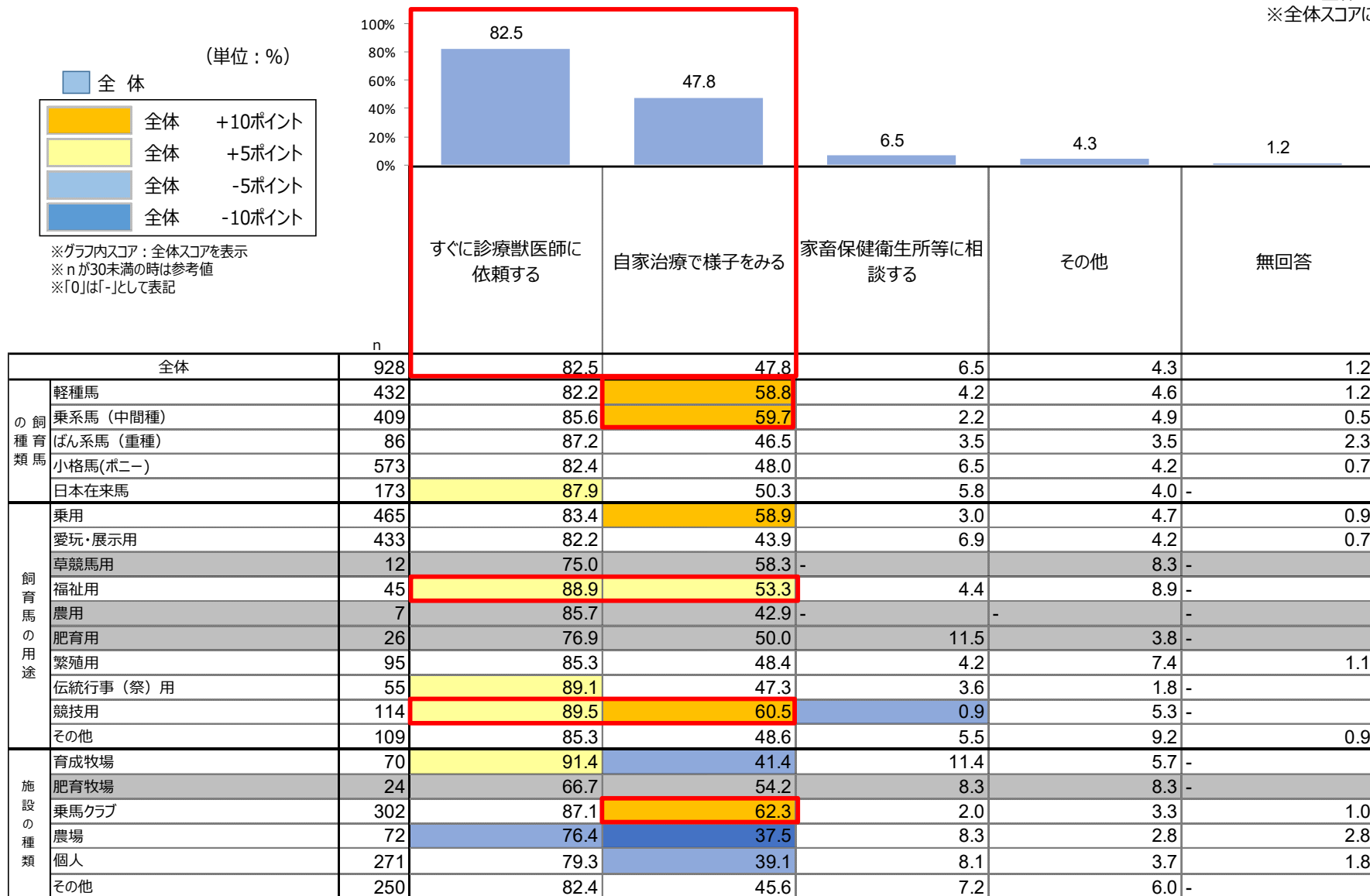


# 飼育馬に異状が認められた場合の対応

- 飼育馬に異状が認められた場合の対応は、「すぐに診療獣医師に依頼する」で83%で高く、次いで「自家治療で様子を見る」が48%で続く。
- 種類で見ると、『軽種馬』『乗系馬（中間種）』は他の馬と比較すると、「自家治療で様子を見る」が高く、全体と比較しても10pt以上高い。
- 用途で見ると、『福祉用』『競技用』は「診療獣医師に依頼する」「自家治療で様子を見る」どちらも全体よりも高い。
- 施設の種類の見ると、『乗馬クラブ』は「自家治療で様子を見る」が他のどの施設と比較しても高い。

Q16. あなたの飼育馬に異状が認められた場合、どのように対応していますか。（複数回答可）

n=全体（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート



# ワクチン接種による予防対策

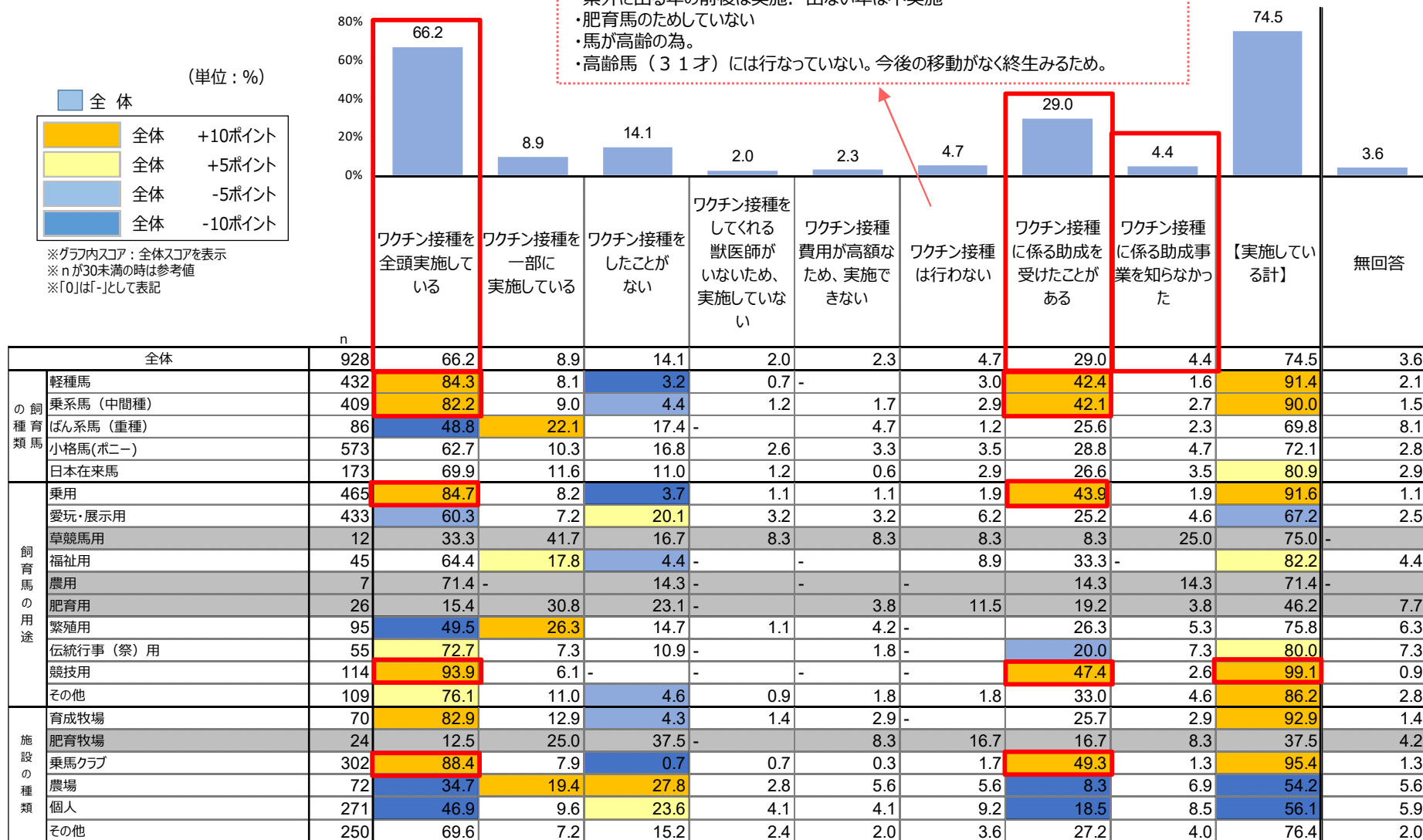
- ▶ ワクチン接種による予防対策は、「ワクチン接種を全頭実施している」が66%で最も高く、次いで「ワクチン接種に係る助成を受けたことがある」が29%で続く。「助成事業を知らなかった」は4.4%で低い。
- ▶ 種類別でみると、『軽種馬』『乗系馬（中間種）』は「全頭接種している」が80%台で高く、「助成を受けたことがある」も全体よりも10pt以上高い。また、『乗用』や『競技用』『乗馬クラブ』でも同様の傾向がみられ、「接種を全頭実施している」「助成を受けたことがある」という回答は関連性がある。『競技用』は【実施している計】が99%で大半がワクチンを接種できている状況。

Q17. ワクチン接種による予防対策についてお選びください。（複数回答可）

### 【ワクチン接種を行わない理由(抜粋)】

- ・他の牧場と離れており、感染の心配が少ない。
- ・他馬やヒトを介しての馬との接触がないため。
- ・県外に出る年の前後は実施。出ない年は不実施
- ・肥育馬のためしていない
- ・馬が高齢の為。
- ・高齢馬（31才）には行っていない。今後の移動がなく終生みるため。

n=全体（単位：%）



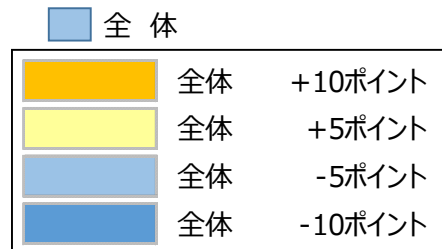
実施している計=「ワクチン接種を全頭実施している」+「ワクチン接種を一部に実施している」

# 馬インフルエンザワクチンの接種方法

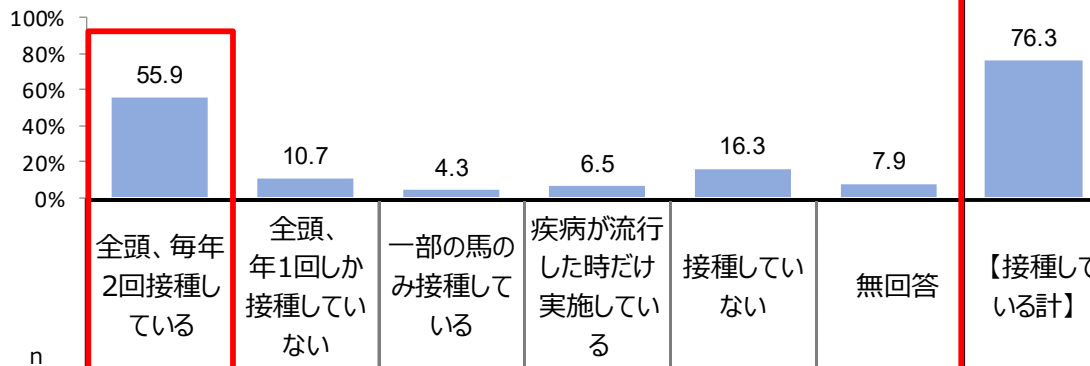
- 馬インフルエンザワクチンの接種方法は、「全頭、毎年2回接種している」が56%で他の回答よりも高い。【接種している計】については76%。
- 種類別でみると、『軽種馬』『乗系馬（中間種）』は【接種している計】が90%を超えており、かつ「毎年2回接種している」が高い。
- 用途別でみると、『乗用』『競技用』のような他の馬や人と関わりがある馬は、ワクチンの接種率が高い。一方で『繁殖用』は「疫病が流行した時だけ実施している」が全体よりも10pt以上高い。
- 施設の種類の別でみると、『農場』や『個人』は「接種していない」という回答が全体よりも10pt以上高い。

Q18. 馬インフルエンザワクチンの接種方法についてお選びください。（複数回答可）

（単位：％）



※グラフ内スコア：全体スコアを表示  
 ※nが30未満の時は参考値  
 ※「0」は「-」として表記



全体		n	55.9	10.7	4.3	6.5	16.3	7.9	76.3
飼育馬の種類	軽種馬	432	80.8	6.3	4.9	2.3	5.8	2.3	92.4
	乗系馬（中間種）	409	76.3	9.3	5.4	2.7	4.9	3.7	91.9
	ばん系馬（重種）	86	33.7	19.8	7.0	12.8	11.6	16.3	72.1
	小格馬(ポニー)	573	53.4	9.9	4.5	7.5	19.2	6.6	74.5
	日本在来馬	173	59.0	10.4	9.2	6.4	11.0	4.6	84.4
飼育馬の用途	乗用	465	79.1	8.4	4.7	2.8	5.4	1.9	93.3
	愛玩・展示用	433	47.6	11.3	3.5	8.1	23.6	6.9	69.7
	草競馬用	12	33.3	16.7	25.0	8.3	8.3	8.3	83.3
	福祉用	45	57.8	6.7	11.1	8.9	8.9	6.7	84.4
	農用	7	14.3	57.1	-	14.3	-	14.3	85.7
	肥育用	26	15.4	7.7	7.7	23.1	26.9	19.2	53.8
	繁殖用	95	40.0	10.5	10.5	17.9	7.4	13.7	78.9
	伝統行事（祭）用	55	58.2	14.5	5.5	3.6	5.5	12.7	81.8
	競技用	114	91.2	5.3	7.0	-	-	0.9	99.1
その他	109	68.8	8.3	7.3	3.7	10.1	5.5	85.3	
施設の種類	育成牧場	70	78.6	7.1	7.1	2.9	2.9	2.9	94.3
	肥育牧場	24	12.5	8.3	8.3	8.3	45.8	16.7	37.5
	乗馬クラブ	302	85.8	6.0	5.3	0.7	3.3	1.7	95.7
	農場	72	20.8	11.1	1.4	19.4	36.1	11.1	52.8
	個人	271	32.1	14.4	4.1	8.5	26.9	15.5	58.7
その他	250	55.2	13.2	4.0	8.8	16.0	3.6	80.4	

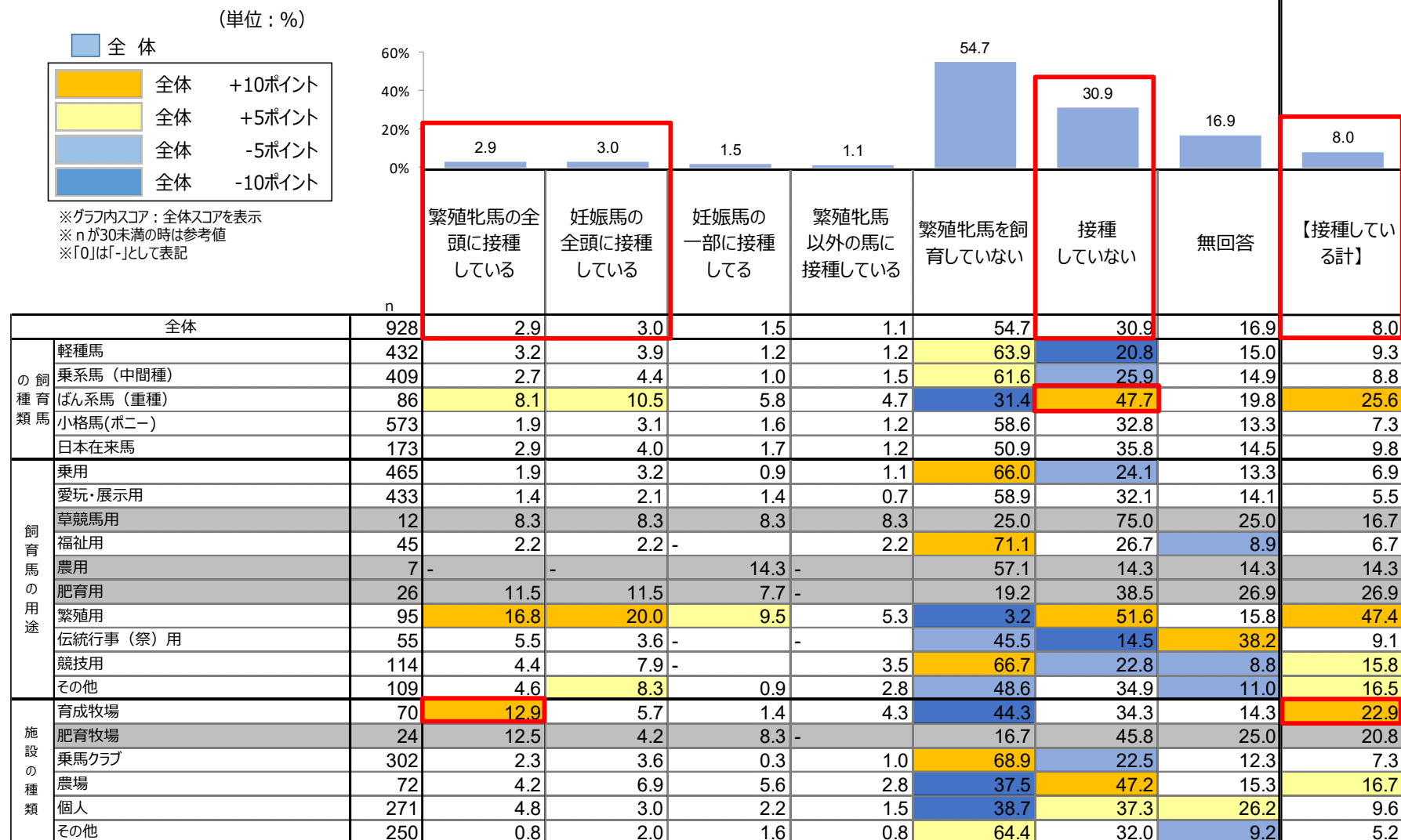
実施している計＝「全頭、毎年2回接種している」＋「全頭、年1回しか接種していない」＋「一部の馬のみ接種している」＋「疫病が流行した時だけ実施している」

# 馬鼻肺炎ワクチン（流産予防のため）の接種方法

- 馬鼻肺炎ワクチンの接種方法は、【接種している計】が8.0%、「繁殖牝馬の全頭に接種している」「妊娠馬の全頭に接種している」は3.0%、「接種していない」が31%で馬鼻肺炎ワクチンの接種率は非常に低い現状。
- 種類別でみると、『ばん系馬（重種）』は「接種していない」が48%で全体よりも10pt以上高い。
- 施設の種類でみると、『育成牧場』は「全頭に接種している」が他の施設と比較して高く、かつワクチンの接種率も全体よりも高い。

n=全体（単位：%）

Q19. 馬鼻肺炎ワクチン（流産予防のため）の接種方法についてお選びください。（複数回答可）



実施している計=「繁殖牝馬の全頭に接種している」+「妊娠馬の全頭に接種している」+「妊娠馬の一部に接種している」+「繁殖牝馬以外の馬に接種している」

---

## 4.意見・要望

Q20. ご意見・ご希望(講習会で聞きたい内容等)

## 高齢馬の飼育管理

- ・老齢馬の管理方法
- ・終生飼育の為 老年馬の飼養管理の方法
- ・高齢馬の心臓疾患について 管理、予防、対処の仕方（心音の聞き取りなど）をお教え頂ければと思います。
- ・高齢馬の歯の摩耗への対策
- ・高齢馬の使役年齢を最大化させる為の運動機能維持対策。

## 講習会・情報提供の充実

- ・講習会に出向けないので関心のある物の資料を閲覧出来ると助かります。
- ・シニアのお馬さん達に元気に過ごしてもらえる飼養に重点を置いた講習会がありましたら、とてもありがたいです。
- ・馬を飼っている個人の人の話や動物園やサファリランドの馬の飼育さん達の日常の話や出来事等の話を聞きたい。具体的な話や出来事を聞きたい。

## 疾病対策と予防

- ・疝痛の応急処置。屈腱炎やその他、よくある病気やケガについて。現在の治療法。
- ・皮膚疾患の予防とケア
- ・馬の流産対策（馬鼻肺炎の他は騒音や振動など）の原因は？など
- ・常備薬であったほうがよいもの。暑さが長引いているので虫もずっといます。対策や、かゆみ止めの薬

## ワクチン接種と補助

- ・ワクチンの補助金をなるべく多く補助して下さい。そうすればワクチンを打つ馬が増え感染症の広がりを防げる
- ・ワクチンの重要性、必要性。（どのワクチンを接種するべきか） 駆虫プログラム（繁殖馬と肥育馬、子馬等）
- ・ワクチン全て接種したいけど先生に逆に断られる！！

## 栄養管理と餌の情報

- ・放牧地（草地）の管理や粗飼料の自家生産 栄養価の高い牧草のつくり方
- ・馬に与えていい草、だめな草等（飼料の高騰で自家牧草や野菜を与える頻度が増えたので）
- ・高齢馬に適した餌はどういう内容か。安価で入手しやすい餌はどんなものがあるか。

## その他

- ・簡易な妊娠鑑定技術の方法等
- ・蹄の管理について、蹄葉炎の予防、治療について蟻道の予防について
- ・歩様の見方、異常のみつけ方と肢蹄のつくり
- ・ワクチンに補助事業があることは知らなかった。より多くの情報を知らせて頂きたいし、活用したいです。

---

## 5.2016年度～2024年度 種類・用途・導入元・年齢把握

- 「軽種馬」「乗系馬」「小格馬」が全体に増加傾向にある。「ばん系馬」「日本在来馬」については昨年より低減している。特に「ばん系馬」は昨年よりも5pt以上低下している。
- 日本在来馬の飼育割合は「北海道和種」「野間馬」「御崎馬」が低減している。一方で「木曾馬」「対州馬」「トカラ馬」が微増している。「北海道和種」については、5pt以上低減している。また、昨年と比較すると約250頭程日本在来馬の飼育が減っている。

(n;回答頭数ベース) (単位: %)

Q4,Q5-1. 飼育馬の種類

n		軽種馬	乗系馬 (中間種)	ばん系馬 (重種)	小格馬 (ポニー)	日本在来馬	その他
2024年度 全体	12,443	↑ 51.7	↑ 22.1	↑ 5.9	↑ 12.6	↑ 7.8	*
2023年度 全体	13,937	49.9	18.2	11.3	11.9	8.8	*
2022年度 全体	15,158	61.1	16.1	8.7	9.4	4.7	*
2021年度 全体	14,537	51.7	17.4	15.6	10.4	5.0	*
2020年度 全体	14,787	60.6	17.4	5.7	11.4	4.9	*
2019年度 全体	13,271	43.8	14.1	23.6	9.9	3.7	4.9
2018年度 全体	8,611	41.9	17.0	19.5	15.2	5.2	1.2
2016・2017年度 全体	20,070	51.4	14.9	16.2	11.5	4.3	1.7

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

Q4. 日本在来馬の品種

(n;日本在来馬・回答頭数ベース) (単位: %)

n		①北海道和種	②木曾馬	③野間馬	④対州馬	⑤御崎馬	⑥トカラ馬	⑦宮古馬	⑧与那国馬	その他	無回答
2024年度 全体	↑ 967	↑ 72.5	↑ 9.0	↑ 0.3	↑ 5.8	↑ 0.3	↑ 9.6	-	2.5	*	*
2023年度 全体	1,220	78.8	7.1	0.9	4.4	0.7	6.1	-	2.0	*	*
2022年度 全体	712	59.0	13.3	2.5	8.3	0.6	10.0	1.1	4.8	*	0.4
2021年度 全体	725	64.3	13.5	0.6	7.6	0.6	8.3	-	3.0	*	2.2
2020年度 全体	729	58.4	14.8	0.4	8.1	0.4	8.8	-	6.4	*	2.6
2019年度 全体	486	66.0	15.2	0.6	1.4	0.6	15.6	-	0.4	*	*
2018年度 全体	451	50.1	10.6	0.4	11.1	-	0.7	-	4.4	22.6	*
2016・2017年度 全体	854	54.4	13.6	0.8	6.3	0.4	12.1	-	3.2	9.3	*

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

➤ 飼育馬の年齢の把握実態は例年同傾向で何かしらの方法で、飼育馬の年齢を把握している状況がうかがえる。

Q7. 飼育馬の年齢把握状況（複数回答可）

n=全体（単位：％）

n		記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している (年月日等の記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している)	年齢の記録があれば把握できるが、導入馬等で記録のない馬は把握していない (年齢条件の記録があれば把握できるが、導入馬等で記録のない馬は把握していない)	年齢は把握していない	年齢の記録のない馬については、歯型等から推定し把握している	無回答
2024年度 全体	928	85.2	9.7	5.7	5.9	1.5
2023年度 全体	921	85.8	9.6	5.6	5.8	0.7
2022年度 全体	885	84.3	9.6	5.6	5.4	1.0
2021年度 全体	969	83.0	12.1	4.4	5.4	1.9
2020年度 全体	1,023	83.6	9.8	5.9	6.1	2.2
2019年度 全体	746	82.3	12.6	7.0	9.4	1.7
2018年度 全体	664	83.0	10.5	8.0	6.8	0.8
2016・2017年度 全体	*	*	*	*	*	*

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

※選択肢()内は過去調査時の選択肢

- ▶ 「乗用」の割合が昨年と比較して5pt以上増加している。一方で「肥育用」の割合が昨年に比べて5pt以上低下している。上位3項目については、今年も例年に引き続き「乗用」がトップに位置し、「競技用」「その他」が続く。また、「競技用」は昨年から微増している。
- ▶ 導入元については2020年ぶりに「中央競馬」が上位に位置する。また、昨年と比較すると「中央競馬」「公営（地方）競馬」「自家生産」がやや増加している。

Q5-2. 飼育馬の用途

(n;回答頭数ベース) (単位: %)

n		乗用	愛玩・展示用	草競馬用	福祉用	農用	肥育用	繁殖用	伝統行事(祭)用	競技用	その他
2024年度 全体	13,068	↑ 53.0	8.7	0.3	1.2	0.1	↑ 7.3	7.9	1.1	↑ 11.6	8.9
2023年度 全体	15,090	47.6	7.7	0.8	1.3	0.4	15.0	7.1	1.6	9.4	9.1
2022年度 全体	16,595	44.0	6.6	0.4	0.9	0.4	11.1	9.6	0.9	10.3	15.8
2021年度 全体	15,022	48.7	7.9	1.0	1.2	0.2	20.0	4.1	0.9	9.8	6.2
2020年度 全体	14,563	48.9	8.8	0.2	1.2	0.2	16.1	5.8	1.1	9.0	8.8
2019年度 全体	13,786	45.2	7.5	0.2	0.6	0.1	30.5	3.9	1.2	1.2	9.7
2018年度 全体	8,937	57.8	10.5	0.8	1.2	1.2	18.9	4.7	0.8	*	4.0
2016・2017年度 全体	20,070	49.6	7.9	0.5	0.7	0.1	19.7	7.7	*	*	13.8

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

Q6. 飼育馬の導入元 (複数回答可)

n=全体 (単位: %)

n		中央競馬	公営(地方)競馬	乗馬クラブ	家畜市場	育成牧場	輸入	自家生産	オークション	その他	無回答
2024年度 全体	928	↑ 23.8	↑ 25.6	44.2	13.0	16.7	14.1	↑ 23.2	5.7	18.6	3.0
2023年度 全体	921	22.6	23.7	43.8	13.0	16.6	15.0	21.6	*	22.7	1.5
2022年度 全体	885	19.5	21.8	42.0	13.2	15.5	12.1	21.8	*	23.7	1.9
2021年度 全体	969	21.3	23.3	41.5	12.6	17.0	14.7	19.4	*	23.7	2.6
2020年度 全体	1,023	24.5	24.5	41.7	15.2	14.7	14.8	20.0	*	24.3	2.9
2019年度 全体	746	20.6	21.2	40.6	14.6	20.4	13.3	22.0	*	23.1	2.4
2018年度 全体	664	17.6	18.4	40.5	15.5	16.3	13.9	21.7	*	23.6	1.2
2016・2017年度 全体	2,129	10.2	11.2	22.3	9.6	10.9	7.5	13.2	*	15.1	*

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

---

# 6.Appendix

# 信頼区間 Q9・Q10

n=15歳以上の高齢馬飼育者（単位：％）  
(n=650)

Q9. 【15歳以上の高齢馬飼育者ベース】あなたの飼育馬が若馬と比較して認められる老化現象の徴候についてお伺いします。（複数回答可）

	度数	%	95%CI	
			下限	上限
関節の硬直／関節の柔軟性の欠如	318	48.9	45.1%	52.7%
刺毛の増加	288	44.3	40.5%	48.1%
筋緊張の低下	186	28.6	25.1%	32.1%
眼窩上窩の深化	128	19.7	16.6%	22.8%
凹背	307	47.2	43.4%	51.0%
下唇の垂れ下がり	187	28.8	25.3%	32.3%
歯の喪失	196	30.2	26.7%	33.7%
繋ぎの低下又は傾斜化	86	13.2	10.6%	15.8%
その他	85	13.1	10.5%	15.7%
無回答	61	9.4		

Q10. 【15歳以上の高齢馬飼育者ベース】現在、若い馬と比較して高齢馬で認められる臨床症状についてお伺いします。（複数回答可）

	度数	%	95%CI	
			下限	上限
筋肉量の減少	387	59.5	55.7%	63.3%
体重の減少	223	34.3	30.7%	37.9%
体重の増加	22	3.4	2.0%	4.8%
咀嚼／嚥下障害	138	21.2	18.1%	24.3%
食欲減退	102	15.7	12.9%	18.5%
食欲増進	14	2.2	1.1%	3.3%
咳	55	8.5	6.4%	10.6%
鼻水	22	3.4	2.0%	4.8%
視力障害	73	11.2	8.8%	13.6%
眼やに	102	15.7	12.9%	18.5%
眼窩上の脂肪	15	2.3	1.1%	3.5%
飲水量の増加	33	5.1	3.4%	6.8%
飲水量の減少	43	6.6	4.7%	8.5%
排尿量の増加	48	7.4	5.4%	9.4%
糞便の変化	56	8.6	6.4%	10.8%
蹄質の変化／蹄の問題化	143	22.0	18.8%	25.2%
毛質の変化	200	30.8	27.3%	34.3%
換毛／冬毛の生え変わりの変化	201	30.9	27.3%	34.5%
うつ状態又は無気力	11	1.7	0.7%	2.7%
運動能力の低下	313	48.2	44.4%	52.0%
その他	33	5.1	3.4%	6.8%
無回答	44	6.8		

比率の95%信頼区間の計算方法について  
 得られた回答比率：p  
 サンプルサイズ：n  
 比率の標準誤差(SE)： $SE = \sqrt{p(1-p)/n}$   
 信頼区間 =  $p \pm 1.96 \times SE$   
 ※下限がマイナスになる場合は0.0%としています

n=15歳以上の高齢馬飼育者（単位：％）  
(n=650)

Q11-1. 【15歳以上の高齢馬飼育者ベース】過去1年間で何らかの臨床症状があった例と獣医師の診療の有無についてお伺いします。（複数回答可）【該当する】

	度数	%	95%CI	
			下限	上限
過去1年以内に何らかの臨床症状があった	538	82.8	79.9%	85.7%
跛行	299	46.0	42.2%	49.8%
外傷／事故による負傷	206	31.7	28.1%	35.3%
疝痛	317	48.8	45.0%	52.6%
呼吸器系の問題	78	12.0	9.5%	14.5%
皮膚疾患	193	29.7	26.2%	33.2%
蹄葉炎	114	17.5	14.6%	20.4%
眼の問題	98	15.1	12.3%	17.9%
下痢	129	19.8	16.7%	22.9%
歯科疾患	139	21.4	18.2%	24.6%
その他	49	7.5	5.5%	9.5%
無回答	112	17.2		

Q11-2. 【15歳以上の高齢馬飼育者ベース】過去1年間で何らかの臨床症状があった例と獣医師の診療の有無についてお伺いします。（複数回答可）【獣医師診療の有無】

	度数	%	95%CI	
			下限	上限
過去1年以内に何らかの臨床症状があった	415	63.8	60.1%	67.5%
跛行	212	32.6	29.0%	36.2%
外傷／事故による負傷	157	24.2	20.9%	27.5%
疝痛	237	36.5	32.8%	40.2%
呼吸器系の問題	62	9.5	7.2%	11.8%
皮膚疾患	136	20.9	17.8%	24.0%
蹄葉炎	87	13.4	10.8%	16.0%
眼の問題	73	11.2	8.8%	13.6%
下痢	76	11.7	9.2%	14.2%
歯科疾患	113	17.4	14.5%	20.3%
その他	28	4.3	2.7%	5.9%
無回答	235	36.2		

n=15歳以上の高齢馬飼育者（単位：％）  
(n=650)

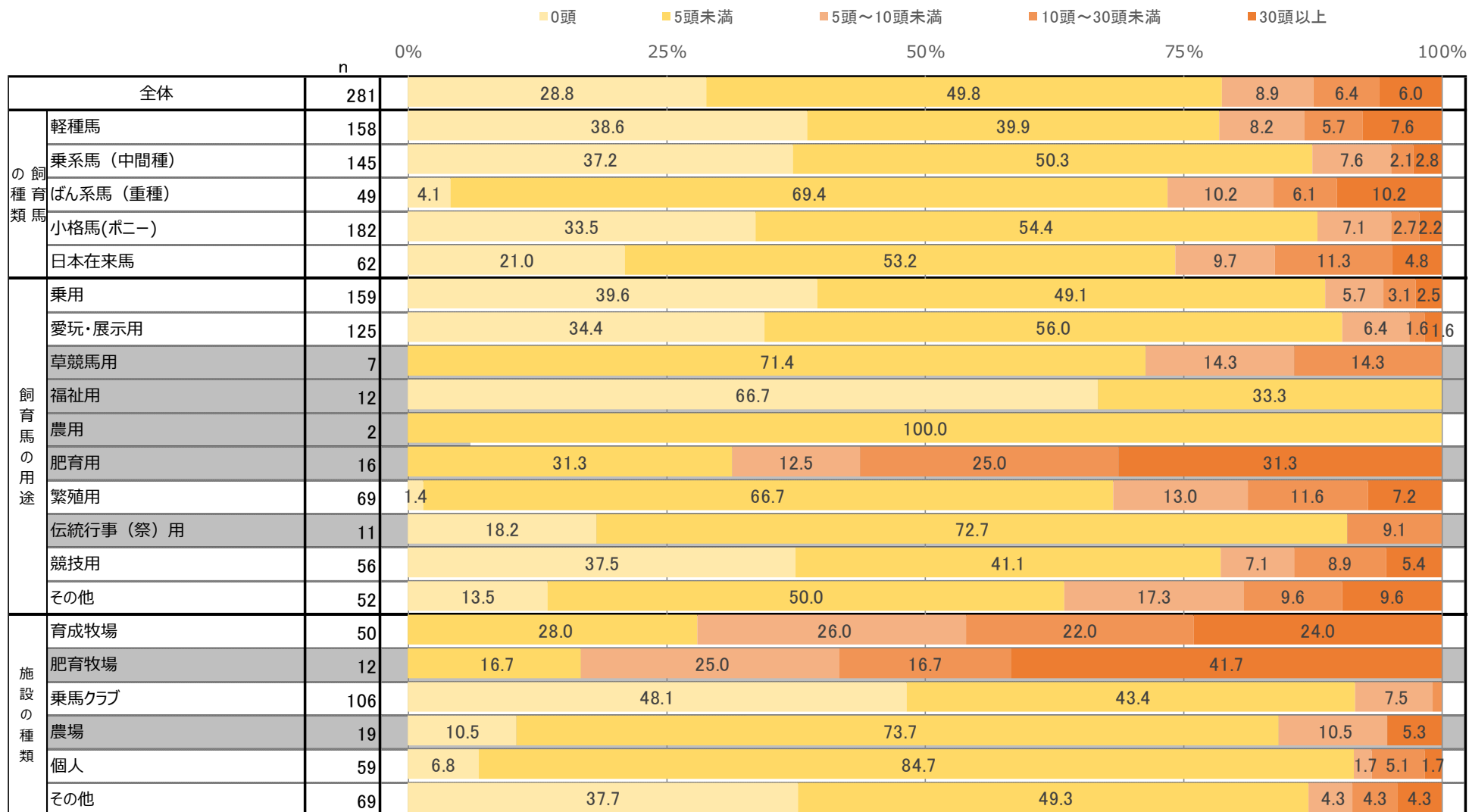
Q12-1. 【15歳以上の高齢馬飼育者ベース】現在治療中の疾病についてお伺いします。（複数回答可）

	度数	%	95%CI	
			下限	上限
変形性関節症	31	4.8	3.2%	6.4%
その他の筋骨格障害	38	5.8	4.0%	7.6%
蹄葉炎	75	11.5	9.0%	14.0%
下垂体中葉機能不全（PPID（旧名称クッシング症候群）	32	4.9	3.2%	6.6%
回帰性気道閉塞（RAO（旧名称息労）	3	0.5	0.0%	1.0%
その他の呼吸器疾患（SAOPDを含む）	10	1.5	0.6%	2.4%
吸血昆虫アレルギー（夏癬）	40	6.2	4.3%	8.1%
その他の皮膚疾患	75	11.5	9.0%	14.0%
その他（心臓疾患、肥満等、神経疾患、首振り、肝臓疾患等）	13	2.0	0.9%	3.1%
眼疾患	32	4.9	3.2%	6.6%
歯科疾患	34	5.2	3.5%	6.9%
無回答	438	67.4		

# 飼育馬の年齢分布【3歳未満】

n=回答者ベース（単位：％）

Q8. あなたの飼育馬の年齢分布について頭数を数字でご記入ください。【3歳未満】

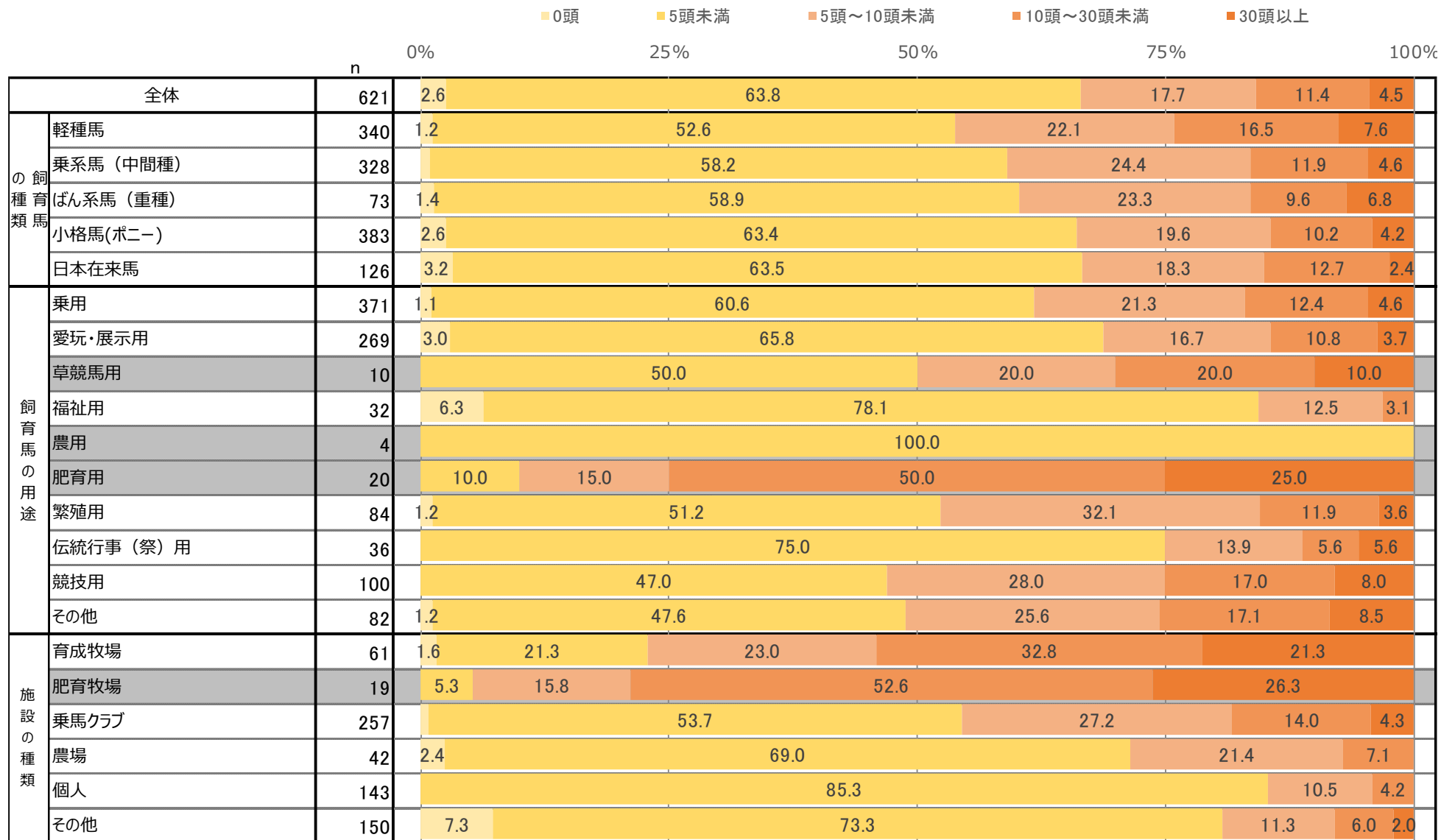


※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示

# 飼育馬の年齢分布【3～10歳】

n=回答者ベース（単位：％）

Q8. あなたの飼育馬の年齢分布について頭数を数字でご記入ください。【3～10歳】

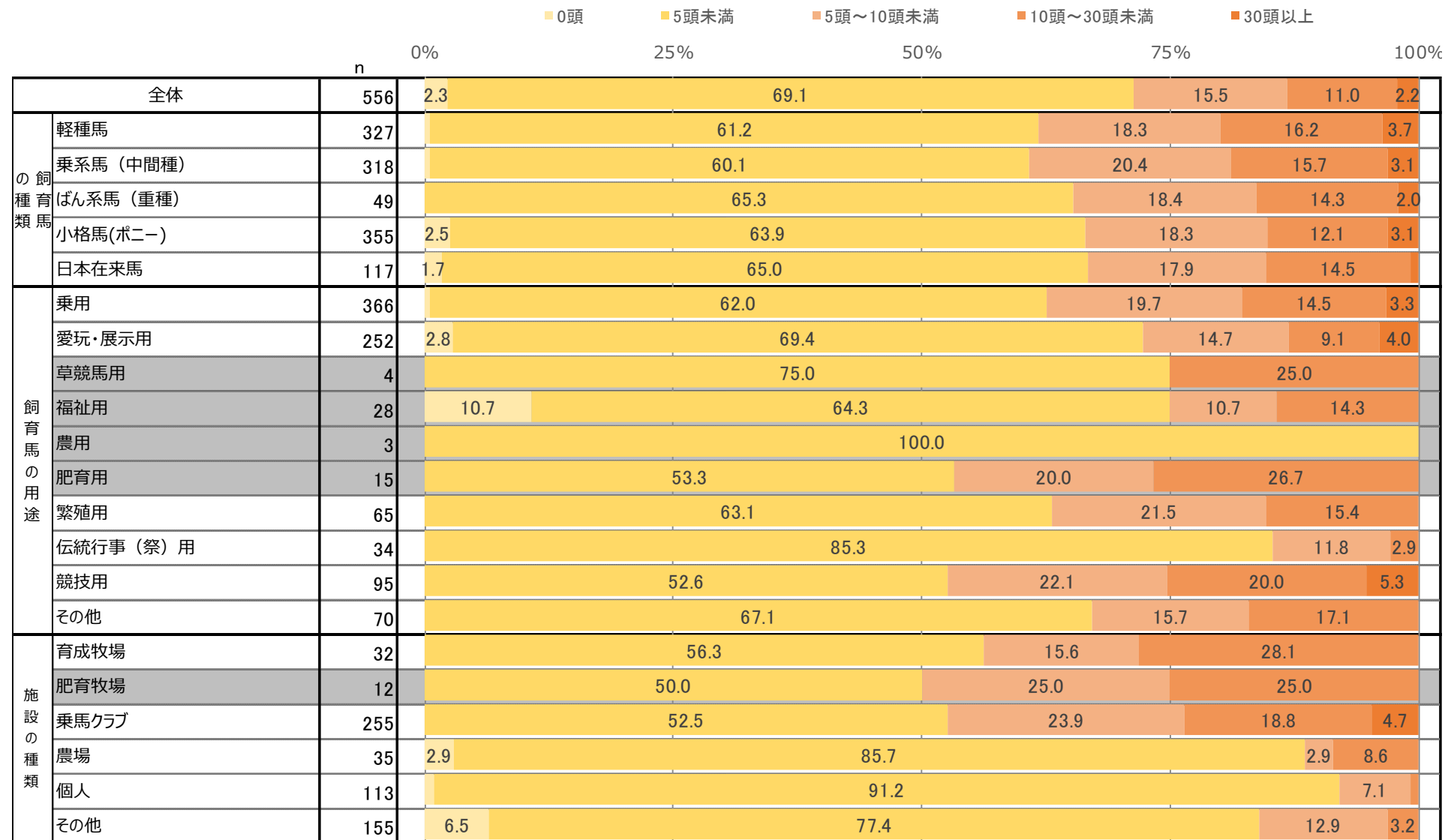


※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示

# 飼育馬の年齢分布【11～15歳】

n=回答者ベース（単位：％）

Q8. あなたの飼育馬の年齢分布について頭数を数字でご記入ください。【11～15歳】

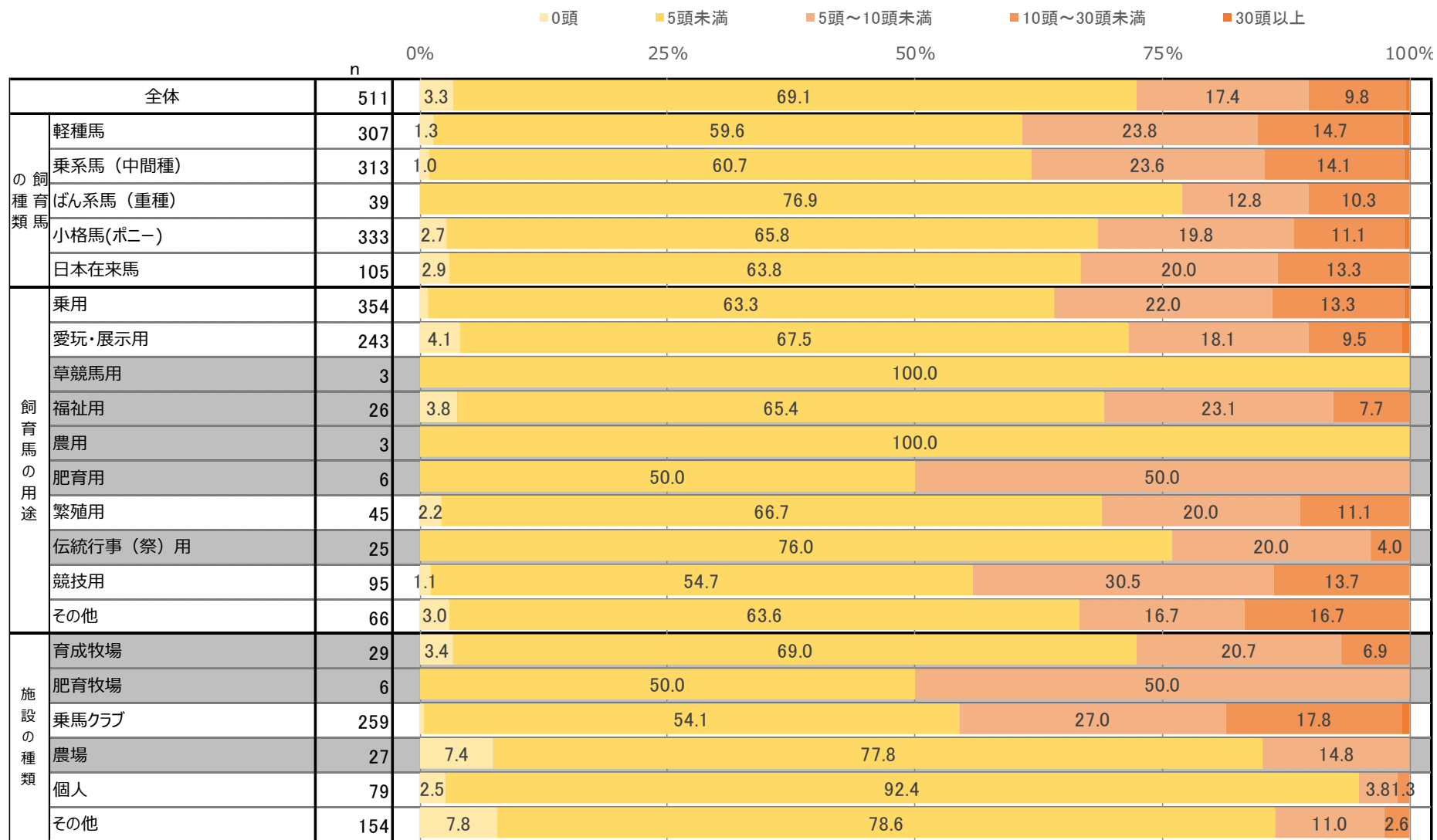


※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示

# 飼育馬の年齢分布【16～20歳】

n=回答者ベース（単位：％）

Q8. あなたの飼育馬の年齢分布について頭数を数字でご記入ください。【16～20歳】

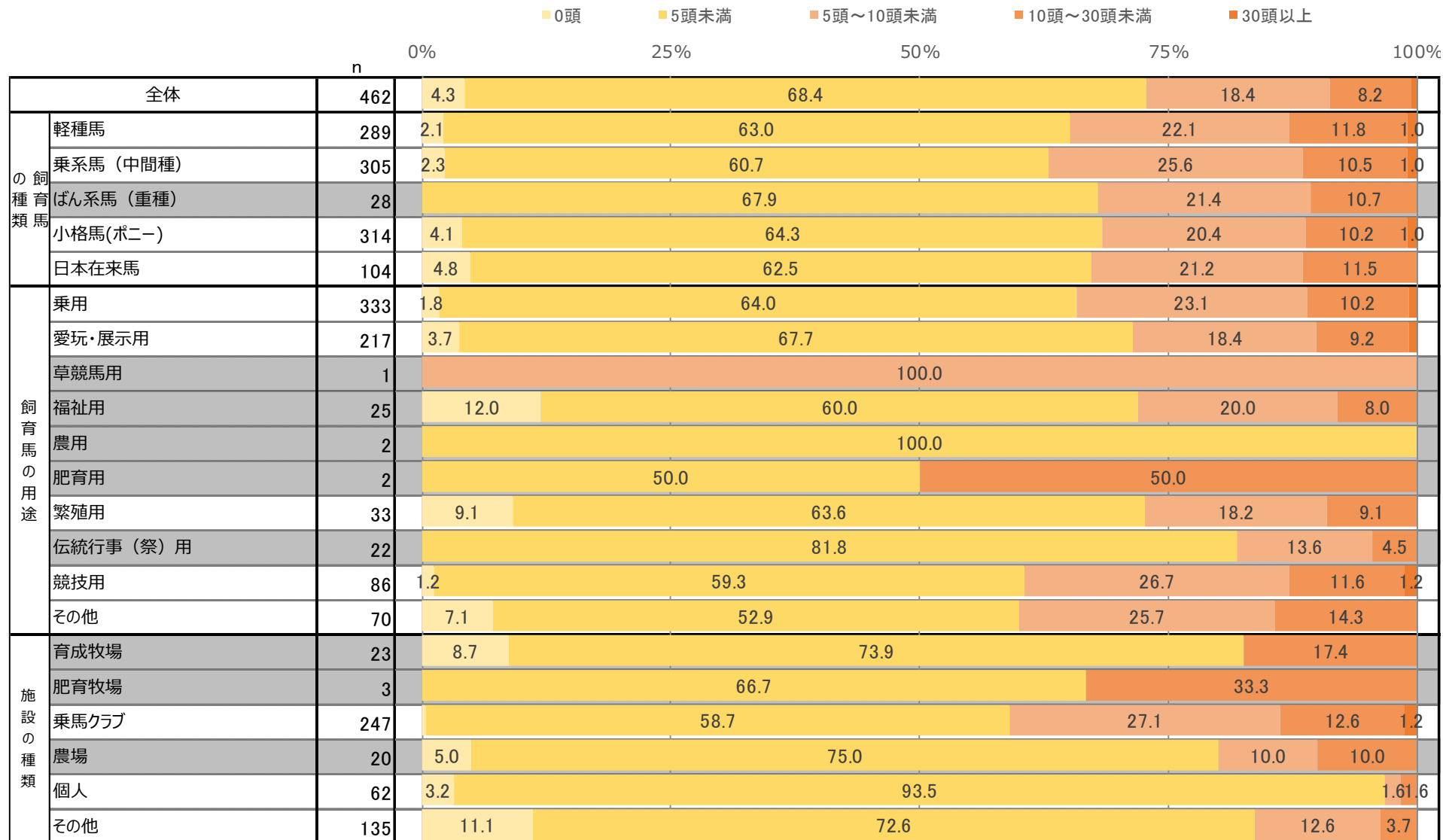


※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示

# 飼育馬の年齢分布【21～30歳】

n=回答者ベース（単位：％）

Q8. あなたの飼育馬の年齢分布について頭数を数字でご記入ください。【21～30歳】

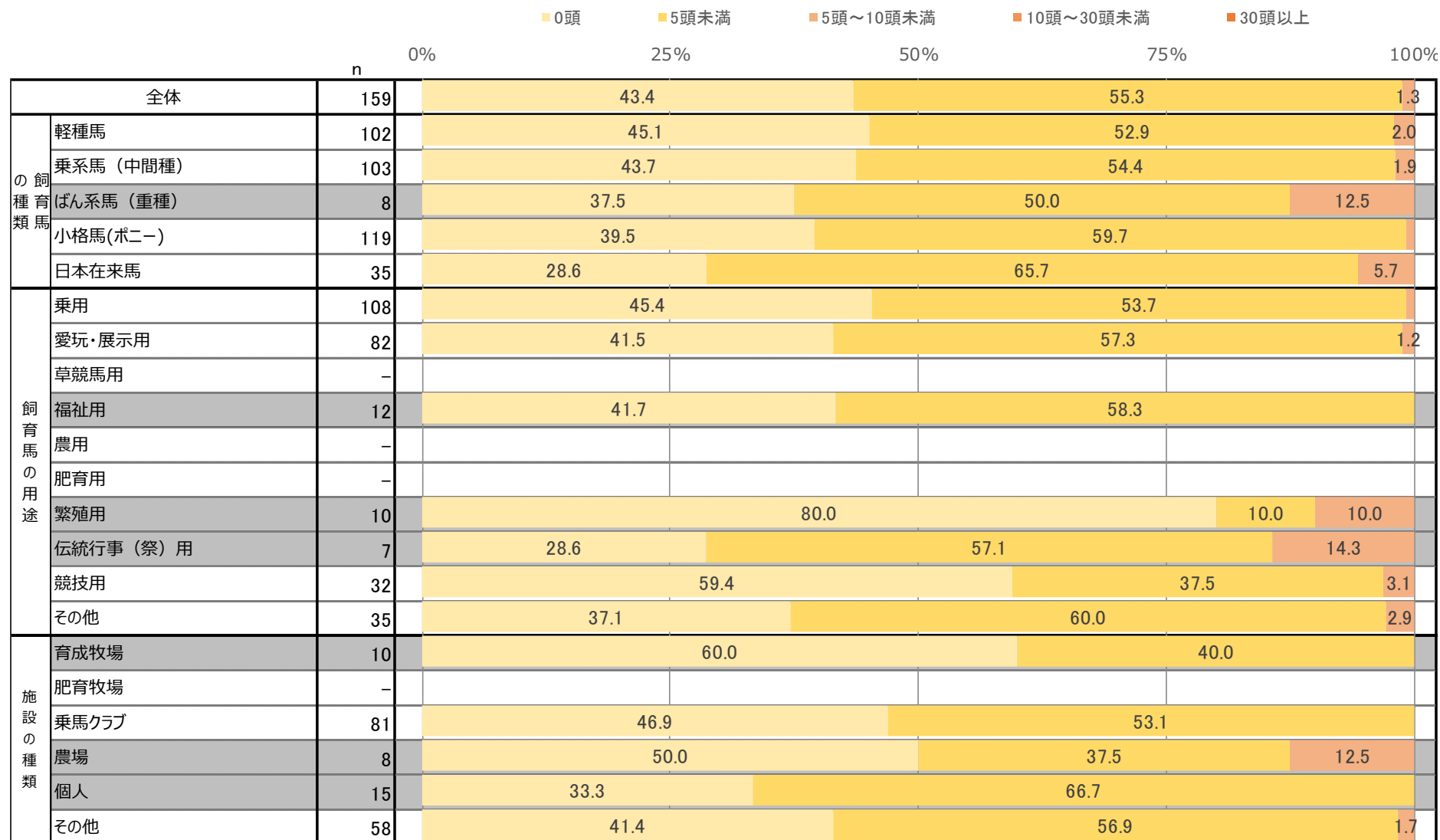


※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示

# 飼育馬の年齢分布【31歳以上】

n=回答者ベース（単位：％）

Q8. あなたの飼育馬の年齢分布について頭数を数字でご記入ください。【31歳以上】



※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示